

平成30年度決算に係る

定期監査調書

平成31年4月

園芸試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	1頁
5	役付職員の調べ	1頁
6	主な事業に関する調べ	2頁
7	収入証紙取扱額調べ	5頁
8	収入事務処理状況調べ	5頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	7頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	7頁
11	不納欠損額調べ	7頁
12	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	7頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	9頁
14	財産に関する調べ	10頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	13頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	14頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	15頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	寄附物件の受納状況調べ	15頁
19	備品の処分状況調べ	16頁
20	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	17頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
21	事業別予算執行状況調べ	18頁
22	農業機械の管理状況	18頁
23	生産物(品)に関する調べ	20頁
24	試験研究調査事業別実施状況調べ	22頁
○	意見、要望等	43頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況
該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
園芸試験場	総務担当	会計事務及び庶務に関すること
	果樹研究室	果樹の育種及び栽培に関すること。
	野菜研究室	野菜の育種及び栽培に関すること。
	花き研究室	花きの育種及び栽培に関すること。
	環境研究室	果樹・野菜・花きの病害虫に関すること。
	砂丘地農業研究センター	ラッキョウ・ブドウ・ナガイモの栽培技術改善に関すること。
	弓浜砂丘地分場	白ネギ等特産野菜の品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	河原試験地	カキの品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	日南試験地	中山間地の特産野菜や花きの品種選定と栽培技術の改善に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成31年4月1日現在)

区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	30.4.1現在	当該年度	30.4.1現在	当該年度	30.4.1現在	当該年度	30.4.1現在	
定員	1	1	33	33	9	9	43	43	
現員	1	1	33	33	9	9	43	43	病害虫防除所兼務6名
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	2	2	0	0	52	55	54	57	農業技術員52名 一般事務 2名

5 役付職員の調べ

(平成31年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
場長	吉田 亮	1年	0月	
次長	小林 弘昌	1年	0月	
課長補佐	石坂 正規	2年	0月	
果樹研究室長	山本 匡将	0年	0月	通算1年0月
野菜研究室長	森本 康史	3年	0月	通算5年0月
花き研究室長	岸本 真幸	12年	0月	通算27年11月
環境研究室長	中田 健	1年	0月	通算23年0月 (兼)病害虫防除所 課長補佐
砂丘地農業研究センター所長	北山 淑一	1年	0月	通算8年0月
弓浜砂丘地分場長	中村 博行	7年	0月	
河原試験地長	藤田 俊二	4年	0月	
日南試験地長	小谷 和宏	0年	0月	

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
ナシの気候変動に対する適応技術の確立	2,100	416	830	854
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>近年、気候変動が激しくなり、気象条件が原因と考えられる品質や収量の低下が多く認められるようになった。安定した品質の果実や数量の供給は消費者の信頼を高めるとともに、生産者の所得向上につながる。気象条件が原因と考えられる障害や品質低下要因について、そのメカニズムを明らかにし、気候変動に適応する技術を確立する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>① これまでに、ニホンナシ「王秋」のコルク状障害の発生は、過度な果肉細胞肥大や高温時の水分ストレスが原因であることを明らかにしてきた。この結果をもとに、障害の発生を抑制する対策技術の検討に取り組んだ。</p> <p>② 人工受粉時期の気温の高低が、着果の良否や果実品質に及ぼす影響の検討に取り組んだ。</p> <p>③ 慣行施肥体系よりも施肥量を削減した体系による栽培試験に取り組んだ。また、適正な土壌改良規模の検討にも取り組んだ。</p> <p>イ 平成30年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>① 「王秋」のコルク状障害発生低減技術の検討に当たり、現場への導入が容易な技術を中心に検討を行った。</p> <p>② 人工受粉時の気温の影響について、これまで未検討であった果実品質への影響も検討した。</p> <p>ウ 成果及び効果</p> <p>① 「王秋」のコルク状障害の発生低減対策として、「早期の摘果」「適正着果量の確保」「土壌深耕」「樹上散水」といった技術を複合的に組み合わせて栽培管理することで、高い障害発生抑制効果があることを明らかにした。これら得られた成果を生産者や指導機関に活用してもらうため、他県の試験研究機関等と共同で「果肉障害対策マニュアル」にとりまとめた。</p> <p>② 果実品質に人工受粉時の温度の影響は認められなかったが、従来は人工受粉が可能な期間が長いとされていた「新甘泉」について、気温が高い条件が続くと受粉適期が短くなる可能性が明らかとなった。</p> <p>③ 慣行施肥体系のうち元肥をカットして施肥量を削減しても、処理開始から12年間には果実品質に影響が見られないことが明らかとなった。</p> <p>エ 課題</p> <p>① 冬～春期にかけての低温による凍害が原因と考えられる「枝枯れ」や「胴枯病」の発生が増えており、対策技術の確立が必要である。</p> <p>② 冬期における施肥が凍害の発生を助長しているという報告があることから、その影響について明らかにする必要がある。</p>				

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
鳥取スイカの生産・消費量拡大を目指す次世代栽培技術	979			979
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
①鳥取スイカの生産量の減少対策として生産規模の拡大ができる省力栽培技術を確立し、優良品種を選定することでロスのないスイカ栽培技術を確立する。				
②鳥取スイカの新たなブランド強化のため小玉スイカ、加工用スイカの生産性、品質向上を図る。あわせてスイカを利用した商品開発、PR促進のため機能性成分を解析する。				
(イ) 事業の実施状況				
①規模拡大のための省力・軽労化技術の確立(無つる引き栽培、不織布べたがけ栽培)				
②作りやすく高品質な品種の選定(ハウス、トンネルの品種の選定、強勢台木の適正施肥)				
③小玉スイカの商品力強化のための栽培技術確立(品種選定、仕立て方法)				
④機能性成分の活用促進のための基礎調査(シトルリン、リコピン含量の調査 鳥大共同)				
⑤漬け物用スイカの安定多収(台木選定、多収栽培法)				
イ 平成30年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
①無つる引き栽培法についてマニュアルを作成し、農家への栽培指導を行った。				
②試験場で選定した有望品種について、倉吉、北栄町のスイカ部会へ情報提供した。				
ウ 成果及び効果				
①スイカの整枝方法の改善として、「無つる引き栽培法」の技術開発を行い、マニュアル作成した(普及に移す技術)。無つる引き栽培と省力整枝(わき芽除去の省力)を組み合わせることで省力効果が高まることを明らかにし、現地普及を図った。				
②ハウスにおける不織布のべたがけ栽培法を確立した(参考となる成果)。				
③ハウスの有望品種として「栄冠」を選定し、現地に情報を提供した。				
④小玉スイカ品種として「夏ここあ」を選定し、本品種に適した整枝方法を明らかにした。				
⑤漬け物用スイカの草勢維持による安定多収のため、台木品種、土壌改良資材、整枝方法について検討した。				
エ 課題				
①現地では低コストハウスの導入が進んでハウスの栽培面積が増えた農家もあり、ハウスでの7月出荷の栽培が行われるようになった。これに伴ってハウスの7月出荷での高品質生産(高温対策)の技術確立が望まれており、遮光技術、品種について検討する。				
②琴浦町のブランドスイカ「がぶりこ」の省力技術としてミツバチ交配について検討する(現状:「がぶりこ」は3倍体品種であるため、2倍体品種の花粉を手交配している)。				

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
イチゴ新品種のブランド化と産地強化に向けた革新技術の開発	748		150	598
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県の冬季寡日照条件下におけるイチゴ栽培の生産性、品質向上を図るため、EOD反応を活用した効果的な加温技術の確立やオリジナル品種「とっておき」(平成30年10月10日品種登録)の特性解明および栽培技術を確立する。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>①EOD (End Of Day;日没後) 反応を活用した燃料削減と生産性の向上を目的に、暖房機による効果的な加温方法 (EOD加温) と遠赤色 (FR) 光の照射 (EOD光照射) について検討した。</p> <p>②県の育成したオリジナル品種「とっておき」の栽培技術確立に向けて、摘果、苗増殖のための受苗時期、栽植密度、炭酸ガス施用、電照の効果について検討した。</p> <p>③「とっておき」の栽培に関する特性 (40項目) についてまとめ、栽培農家へ情報提供を行った。「とっておき」の普及および生産安定を図るため、県内農家を対象に「とっておき」研究会を開催し、栽培農家間で情報共有を図った (H30年度までに4回開催)。</p>				
イ 平成30年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<p>①「とっておき」は本県の主要品種「章姫」の栽培特性と異なることが明らかとなってきたため、試験結果に基づいて、普及所と連携して栽培農家を訪問し、栽培指導を行った。</p>				
ウ 成果及び効果				
<p>①外気温が高い時期は日没後15℃3時間加温し、その後無加温、外気温が低い時期は同様に20℃とするEOD加温を行い、慣行の終夜8℃加温と比較した。品種は「章姫」を用いた。その結果、EOD加温の収量は慣行と同等で、燃料費は慣行と比較して6%削減できた。</p> <p>②日没後3時間FR光を照射 (EOD光照射) は、無照射と比較して収量が高まり、平均一果重も大きかった。FR光を照射の効果には品種間差が認められ、「章姫」において効果が高かった。</p> <p>③「とっておき」は摘果によって収量の増加はないものの、L規格以上の割合、1果重、可販率の向上が認められた。苗受時期と定植時期は早いほど出蕾が早かった。栽植密度は狭めることによって収量が高まった。炭酸ガスおよび電照によって生育が良好になる傾向が認められた。</p> <p>④「とっておき」栽培農家数は前年の23戸から30戸に増加し、栽培面積も拡大した。</p>				
エ 課題				
<p>「とっておき」の栽培農家数、面積ともに拡大しており、今後「とっておき」のブランド化とイチゴ産地の拡大を図るため、本品種に適した栽培技術を確立する試験研究を行う。</p> <p>①「とっておき」の特性解明と栽培マニュアル ②EOD反応解明と栽培マニュアル ③省力・低コスト育苗法の開発 ④新品種・系統の適応性検定</p>				

7 収入証紙取扱額調べ 該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1)分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(平成30年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
行政財産 使用料	行政財産 使用料	電柱敷地等	10	93,622	93,622	0	0	鳥取県行政財産使 用料条例	
		職員駐車場	52	52,000	52,000	0	0	"	
	計(節)		62	145,622	145,622	0	0		
目 計			62	145,622	145,622	0	0		
合 計			62	145,622	145,622	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(平成30年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
財産貸付収入	財産貸付収入		2	14,782	14,782	0	0	公有財産事務取扱 要領	
		計(節)		2	14,782	14,782	0	0	
目 計			2	14,782	14,782	0	0		
生産物売払収入	生産物売払収入		223	24,284,748	21,387,780	0	2,896,968	農林水産関係試験 研究機関等におけ る生産品事務取扱 要領	
		計(節)		223	24,284,748	21,387,780	0	2,896,968	
目 計			223	24,284,748	21,387,780	0	2,896,968		
合 計			225	24,299,530	21,402,562	0	2,896,968		

(5) 諸収入

(平成30年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
農業等検 定受託事 業収入	農業等検定受託事業 収入		0			0	0		
	計(節)		0	0	0	0	0		
日本種苗 協会受託 事業収入	日本種苗協会受託事 業収入		0			0	0		
	計(節)		0	0	0	0	0		
農業・食品 産業機構 受託事業 収入	農業・食品産業機構 受託事業収入		5	4,338,000	4,338,000	0	0		
	計(節)		5	4,338,000	4,338,000	0	0		
雑 入	雑 入	預金利息	2	2	2	0	0		
		自動販売機電気代、 手数料	6	149,101	149,101	0	0		
		原稿料	1	9,600	9,600	0	0		
						0	0		
						0	0		
						0	0		
計(節)		9	158,703	158,703	0	0			
目 計			14	4,496,703	4,496,703	0	0		
合 計			14	4,496,703	4,496,703	0	0		

(6) 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(平成30年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備 考
生産物売払収入	2,353,850	2,366	生産品販売代金
合 計	2,353,850	2,366	

イ つり銭の状況

(平成30年12月31日現在)

つり銭の有無	有	つり銭の額(円)	20,000

(平成30年12月31日現在)
(単位:円)

9 収入未済額調べ	区分		過年度				年度分			現年度分			収入未済額 計(A+B)	未収理由
	収入科目	節	前年度 以前からの繰越額	左のうち 収入済額	不納 欠損額	差引収入 未済額(A)	収入未済額の測定年度内訳			収入済額	収入 未済額 (B)			
							27年度 以前	28年度	29年度					
生産物売払収入		細前	0	0	0	0	0	0	0	21,387,780	2,896,968	2,896,968	2,896,968	農協ほかの入 金が遅れた
		計(節)	0	0	0	0	0	0	0	21,387,780	2,896,968	2,896,968	2,896,968	
		目計	0	0	0	0	0	0	0	21,387,780	2,896,968	2,896,968	2,896,968	
		繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		目計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		合計	0	0	0	0	0	0	0	21,387,780	2,896,968	2,896,968	2,896,968	

10 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

11 不納欠損額調べ

該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(平成30年12月31日現在)
(単位:円)

予算科目(目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令等 (締約、要領等を含む)	備考
(園芸試験場費) 新規以外のもの						1,067,853		文書ID18-00212034 (最終支払)
目計						1,067,853		
合計						1,067,853		

(2) 補助金 該当なし

(3) 交付金 該当なし

(4) 委託料

(平成30年12月31日現在) (単位:円)

予算科目 (目)	国 庫 の 別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約		入 年	札 月 日 (契約保証金 (納付年月日) 契約形態)	等 日	完了 年月日	支出の状況		備 考
				予定価格	契約 年月日 (契約額) 変更契約(最終) (契約年月日) 契約額					契約 期間	支出 区分	
園芸試験場費	単 県	鳥取県園芸試験場施設警備業務	鳥取市南安長1-1-2 山陰警備保障(株)	2,376,000	(H30.3.28) 2,373,624	H30.4.1~ H33.3.31	H30.3.16 (免除) 指	H30.4.30外 H30.5.1外		精	H30~H32年度 債務負担行為 年額 791,208円 文書ID17-00301569	527,472
上記以外、予定 価格が250万円未 満のもの												956,703 100万円未満
目 計												1,484,175
合 計												1,484,175

(平成30年12月31日現在)
(単位:円)

予算科目 (目)	国補 単 の別	工 事 名	当初契約			入 札 等 年 月 日 (契約保証金 付等年月日)	請 負 人	支出の状況			地 成 実 完 年 月 日 査 年 月 日	変更(解除)の 理由・内容	備 考
			(起工年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額	工期			支出区分	年月日	金額			
			(変更年月日) 設計額	変更契約(最終) 契約額	工期								
園芸試験場費	単 県	園芸試験場低温貯蔵庫冷凍 冷蔵設備ほか改修工事	(H30.10.1) 7,495,200	(H30.11.1) 7,419,600	H30.11.1~ H31.2.22	H30.10.25 (H30.10.31)	(有)柏書浄水	-	-	-	-	-	中部総合 住宅課に配当 替えし実 施
			(H30.12.18) 501,228	(H31.1.24) 415,800	H31.1.24~ H31.3.22	H31.1.11 (免除)							
			(31.1.31) 165,000	-	-	H31.2.12 (免除)							
園芸試験場費	単 県	鳥取県園芸試験場花きハウ ス3棟換気扇交換工事	(31.1.31) -	-	-	随	(株)アークス	-	-	-	-	-	文書ID 18- 00277647
			(31.1.31) -	-	-	随							
			(31.1.31) -	-	-	随							
園芸試験場費	単 県	砂丘地農業研究センター野 菜低コストハウスかん水施 設に係る電気工事	(31.1.31) -	-	-	随	-	-	-	-	-	-	「予定」
			(31.1.31) -	-	-	随							
			(31.1.31) -	-	-	随							
目 計										0			
合 計										0			

14 財産に関する調べ

(1)公有財産
ア 土地

(平成30年12月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		増減別	本年度異動状況				差引		備考		
			面積(m ²)	価額(円)		異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)		価額(円)	
行政財産	(本場) 敷地・畑・道路	(北栄町由良宿字上ノヲソヲ2048外)	204,538.91	181,259,013	増加					H	204,538.91	181,259,013		
					減少						H			
	(砂丘地農業研究センター) 敷地・道路	(北栄桑町田井字沖浜527外)	9,881.00	不明	増加						H	9,881.00	不明	
					減少						H			
普通財産	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883外)	34,465.72	不明	増加						H	34,465.72	不明	
					減少						H			
	(弓浜砂丘地分場) 畑・宅地	(埴港市大字中海干拓地15外)	29,018.52	61,040,000	増加						H	29,018.52	61,040,000	
					減少						H			
小計	(河原試験地) 敷地・道路	(鳥取市河原町大字佐貫字丸橋527)	1,545.11	不明	増加						H	1,545.11	不明	
					減少						H			
小計			279,449.26	-							279,449.26	-		
普通財産	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883-37外)	3,001.32	不明	増加						H	3,001.32	不明	
					減少						H			
小計			3,001.32	-							3,001.32	-		
合計			282,450.58	-							282,450.58	-		

イ 建物

(平成30年12月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考			
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	価額(円)				
														増加	減少	
行政財産	(本場)	(北栄町由良宿)	5,469.84	416,831,142	増加	H										
	機械格納庫外				減少	H								5,469.84	416,831,142	
	(西園ほ場)	(北栄町西園)	252.00	不明	増加	H										
	管理器材庫外				減少	H								252.00	不明	
	(倉吉ほ場)	(倉吉市大谷茶屋)	2,078.49	102,208,799	増加	H										
	本館外				減少	H								2,078.49	102,208,799	
	(弓浜砂丘地分場)	(境港市中海干拓地)	849.47	222,110,000	増加	H										
	本館外				減少	H								849.47	222,110,000	
	(河原試験地)	鳥取市河原町佐貫	413.37	28,027,487	増加	H										
	本館外				減少	H								413.37	28,027,487	
	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井)	436.79	65,930,550	増加	H										
	本館外				減少	H								436.79	65,930,550	
(日南試験地)	(日南町阿毘縁)	404.12	41,667,915	増加	H											
本館外				減少	H								404.12	41,667,915		
合計			9,904.08	-									9,904.08	-		

ウ 山林 該当なし

エ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機) 該当なし

オ 物件 該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等) 該当なし

キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成30年12月31日現在)

種 別	前年度末	本年度中		差 引	備 考
		受入額	払出額		
郵便切手及び 郵便はがき	円 124,000	円 121,220	円 105,294	円 139,926	
収入印紙	2,800	0	0	2,800	
合 計	126,800	121,220	105,294	142,726	

イ タクシーチケットの受払状況 該当なし

15 財産の貸付及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物
 ア 土地

(平成30年12月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先住所氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
行政財産	電力供給施設	本場 北栄町由良宿	電柱 2本 支柱 2本 支線 7条	H.26.3.5	S.53.10.16	H.26.4.1 ~ H.31.3.31	19,030	19,030	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	変更承認 文書 ID18-00106840
	"	"	支線 1条	H.30.7.12	H.30.7.12	H.31.3.31	1,730	1,297	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	
	"	"	電柱 6本 支柱 1本 支線 2条	H.25.3.22	S.63以前	H.30.4.1 ~ H.35.3.31	15,570	15,570	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	
	"	"	支柱 1本 支線 1条	H.30.6.28	H.30.6.28	H.30.7.2 ~ H.35.3.31	3,460	2,595	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	H30新規 文書 ID18-00089171
	"	"	支線 2条	H.29.1.27	H.14.4.18	H.29.4.1 ~ H.34.3.31	3,460	3,460	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	
	"	"	電柱 7本 支線 5条	H.29.2.2	H.9.4.1	H.29.4.1 ~ H.34.3.31	20,760	20,760	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株) 鳥取支店長 坪井 秀明	
	"	"	支線 1条	H.27.3.5	H.17.8.15	H.27.4.1 ~ H.32.3.31	1,730	1,730	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	
	"	"	電柱 1本 電柱 2本	H.30.3.22	H.20.3.31	H.30.4.1 ~ H.35.3.31	4,960	4,960	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	H30更新 文書 ID17-00268421
	"	"	電柱 6本 支柱 1本 支線 3条	H.27.3.5	H.3.1.9	H.27.4.1 ~ H.32.3.31	17,300	17,300	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎	
	"	"	電柱 3本 支線 1条	H.29.2.2	H.14.4.18	H.29.4.1 ~ H.34.3.31	6,920	6,920	米子市加茂町2丁目51番地 中国電力(株) 米子営業所長 松屋 親広	
	"	来客用	本場 北栄町由良宿	自動販売機 1台	H.29.4.1	H.24.4.1	679	679	鳥取市殿ヶ丘2丁目667-14 (株)戸信 代表取締役 戸信 暖久	H28まで使用許可 H29から貸付契約
	"	種苗増植	倉吉ほ場 倉吉市大谷茶屋	3,066㎡	H.30.3.22	H.29.5.1	14,103	14,103	真伯郡三朝町本京371 鳥取中央農業協同組合 三朝神倉大豆生産部長 坂西 勝	
	計							108,404		
	普通財産							0		
	計							0		
合計							108,404			

イ 建物 該当なし

該当なし

(2) 物品

16 借受不動産明細調べ

区分	種別	借受(使用)目的	所在地	数又は面積	量は積	m	契約の状況			借受先		備考
							借期	受間	単価	借料(円)	本年度の借料	
(河原試験地)	山林・畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字丸橋564	7,608.00	有	S30.12.10 ~	月額・年額 無料	無料	鳥取市			
土地	畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字狭間1827-1外	12,388.39	有	H.28.3.22 ~ H.33.3.21	月額・年額 無料	無料	鳥取市			
土地	田	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字岡崎122-2外	3,305.00	有	H.30.4.1 ~ H.31.3.31	丹額・年額 26,440	26,440	「個人」			
土地	畑	河原試験地 試験駐車場 用地	鳥取市河原町佐貫字園橋532	451.90	有	H.17.5.1 ~ H.32.3.31	丹額・年額 21,691	21,691	「個人」			
(本場)	山林	排水施設用 地	東伯郡北栄町由良宿字上ノノヲ2040-3外	146.00	有	H.20.4.1 ~ H.31.3.31	丹額・年額 3,285	3,285	「個人」			
(日南試験地)	畑・田	日南試験地 用地	日野郡日南町阿毘線字ヒヤケ田1201外	17,157.61	有	S.57.4.1 ~ H.31.3.31	月額・年額 無料	無料	日南町			
合計				41,256.90				51,416				

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1)職員住宅 該当なし

(2)職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積(m ²)	貸付(使用)料(月額)(円)
行政財産	本場 (黄伯郡北栄町由良宿2048)	12.5	1,000
	砂丘地農業研究センター (黄伯郡北栄町田井529)	12.5	1,000
	弓浜砂丘地分場 (横港市中海干拓地27)	12.5	1,000
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	1,000
	日南試験地 (日野郡日南町阿理緑1203-1)	12.5	1,000
普通財産			

イ 異動状況

(行政財産)

月別	前月末		当月減		当月増		当月末		調定額	減免状況	収入済額	収入未済額
	人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免				
4月	100		100		100		94		6,000	円(理由)通勤手段として勤務先への公共交通機関が確保できないため 減免率 10/10	6000	0
5月	100		100		100		94		6,000	"	6000	0
6月	100		100		100		94		6,000	"	6000	0
7月	100		100		100		94		6,000	"	6000	0
8月	100		100		100		94		6,000	"	6000	0
9月	100		100		100		94		6,000	"	6000	0
10月	100	1	100	1	99		93		6,000	"	6000	0
11月	99		99		98		93		5,000	"	5000	0
12月	98		98		98		93		5,000	"	5000	0
合計									52,000		52,000	0

18 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

19 備品の処分状況調べ

(平成30年12月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用 年数	取得価格 円	不用決定 年月日	不用とする 理由	処 分				備 考
							売払棄 却の別	売払方法・ 棄却理由	処分 年月日	売払額・ 処分費用 円	
スピードスプレー	1	H14.27	8	2,729,500	H30.11.15	老朽化のため 使用不能	売払	ネットオー クシヨ	H30.12.17	71,200	引渡済み
耕うん機	1	H10.3.30	8	420,000	H30.11.15	老朽化のため 使用不能	売却	ネットオー クシヨ			落札後(35,000 円)辞退
深耕機	1	S55.7.28	8	800,000	H30.11.15	老朽化のため 使用不能	売却	ネットオー クシヨ			落札後(35,000 円)辞退
管理機	1	H14.5.13	8	269,850	H31.1.28	老朽化のため 使用不能	棄却	新車購入 時に引取	H30.12.27		引渡済み
動力運搬車	1	H14.5.20	8	766,500	H31.1.28	老朽化のため 使用不能	棄却	新車購入 時に引取			H30.12.23購入契 約 納車時に引渡 予定
超純水製造装置	1	H6.6.30	6	469,886	H31.1.28	老朽化のため 使用不能	棄却	新装置購 入時引取	H30.11.17		引渡済み
トラクター	1	H15.8.8	8	2,677,500	H31.1.28	老朽化のため 使用不能	棄却	新車購入 時に引取	H30.11.13		引渡済み
除雪機	1	H3.12.9	8	280,000	H31.2.8	老朽化のため 使用不能	棄却	新車購入 時に引取	H30.10.29		引渡済み
合 計	8			8,413,236						71,200	

20 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(平成30年12月31日現在)

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額	亡失、損傷年月日、時	同左場所	同左概要	報告 年月日	会計局の 審査結果
該当なし							
合計	0	0					

(2) 物品の照合

照合年月日	現物が確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
平成30年8月27日 ～ 平成30年9月20日	有 (無)		

22 農業機械の管理状況

(平成30年12月31日現在)

品名 (本場)	形式 規 格	取 得 年 月 日	用 途	稼働 日数 日	燃 料		修理費等 円	左 の 主 な 内 容 円	備 考
					消 費 量	金 額 円			
動力運搬車	ヤンマー FG-182SD	H6.4.20	生産物運搬	34	ガソリン	21	3,066		
"	チクスイ ES-672MCDP	H22.6.18	"	95	ガソリン	70	10,220	480	クリーナエレメント交換
"	チクスイキャニコム J-80DP	H26.6.4	"	124	ガソリン	53	7,738	10,260	変速機調整ほか
"	チクスイ J-80-DP	H12.5.9	"	127	ガソリン	92	13,432	39,786	プロペラシャフトベアリング交換 エレメント、カバー、クランプ
"	カワシマ RF-4WD-DV	H15.6.18	"	104	ガソリン	99	14,454	0	
"	カワシマ RX4WD-A ACK	H28.5.23	"	81	ガソリン	57	8,322	0	
"	カワシマ AC19D-4WD-SE	H24.8.9	"	66	ガソリン	62	9,052	2,360	オイルキャップの交換
トラクター	ヤンマー F180DXLUK	H4.8.20	"	4	軽油	3	420	0	
"	ヤンマー AF-30ML	H6.1.21	"	27	軽油	131.6	18,424	92,610	バンク修理、水漏れ修理
"	クボタ SL54HCMANP	H28.7.14	"	33	軽油	344.4	48,216		
"	ヤンマー 18PS AF218VPVKS4M	H14.6.10	"	78	軽油	207	28,980	36,526	ロータリー爪の交換
"	ヤンマー 低床 RS-300FKVU	H14.6.10	"	70	軽油	115.5	16,170		
"	ヤンマー26PS EF326XUQKC5	H15.8.8	"	117	軽油	215	30,100	17,345	エアコン修理
"	クボタ FT300 FQMAEQR5	H30.11.13	"	18	軽油	68	9,520		平成30年11月 13日購入
"	ヤンマー EF220VUKS5ME	H16.6.24	耕耘・畝立 除雪	94	軽油	177	24,780	22,140	バッテリー交換
スピードスプレヤー	昭信 3S-FSC1061	H25.6.11	薬 散	19	軽油	306.6	42,924	1,771	リング
"	ヤンマー YAS1000DX	H7.7.31	"	27	軽油	310.8	43,512	0	
"	昭信 3S-FSC615	H15.4.21	"	21	軽油	317.8	44,492	0	
管理機 (高畦整形機)	クボタ(土壌消毒機付) TI-55 NO.1	H4.9.4	薬剤土壌灌注	6	ガソリン	4	584	13,500	ポンプ分解、注入針点検 注入針修理
ネギ用管理機	クボタ TA800-SCJV	H23.8.26	耕耘・畝立	9	ガソリン	3	438	0	
管理機	イセキ(高畝成形機付) KP7F6	H14.6.17	耕耘・畝立	8	ガソリン	2	292	0	平成30年12月 27日下取り
"	三菱マヒンドラ農機(株) MM158ASP	H30.12.27	耕耘・畝立	0		0	0	0	平成30年12月 27日購入
草刈りバインダー	クボタ RJ55-TK	H17.7.29	草刈結束	0	ガソリン	0	0	0	
高所作業車	共立 KCG-3500SH/T	H5.5.17	樹園地刈込	15	ガソリン	26	3,796	360	エレメント交換
"	共立 KCG-3500H	H17.6.9	"	13	ガソリン	40	5,840	142,560	クローラ交換
乗用草刈機	オーレック RM90V	H9.8.14	"	46	ガソリン	154	22,484	7,500	バッテリー交換
"	アグリップ RM-80JD	H11.2.16	"	29	ガソリン	119	17,374	0	
"	アテックス刈馬王 R-950HA	H19.7.4	"	43	ガソリン	341	49,786	17,520	エレメント交換 刈刃上下調整
"	フジイ MB1021 X1	H23.6.9	"	33	ガソリン	310	45,260	22,572	タイヤ交換空気漏れ修理 バンク修理
芝用スイーパー	カワシマ LS805D	H14.4.25	芝の集草	41	ガソリン	39	5,694	0	
芝刈り機	パロネスLM81	H15.7.31	芝刈り	18	ガソリン	18	2,628		
除雪機	ワドー SS138UH	H15.12.16	除 雪	0	ガソリン	0	0		

品名	形及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃料		修理費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
					ℓ	円	円	円	
(砂丘地農業研究センター)									
トラクター	ヤンマー EF326XUQKC5	H15.9.29	圃場管理	26	軽油	160	22,400	0	
動力運搬車	テクスイ ELL801	H16.6.8	運搬	55	ガソリン	15.5	2,263	0	
"	ヤンマー CG-146D	H6.4.20	"	23	ガソリン	8	1,168	0	
動力噴霧器	ATC-433M	H20.12.3	薬散	47	ガソリン	40.5	5,913	3,780	ホースガイドローラー交換 3,780
チップシュレッダ	共立 P-1100C	H17.8.4	枝葉裁断	10	ガソリン	18	2,628	73,980	回転刃・固定刃交換 73,980
管理機	クボタクローラー式 TA800-SCJV	H19.9.26	根切り 掘上	9	ガソリン	12	1,752	0	
草刈機	シバウラー刈-モア SM615B	H3.5.24	草刈	0	ガソリン	0	0	0	
トラクター	クボタ KL24RFQMANP	H24.9.19	耕耘・畝立 除雪・残渣処理	58	軽油	325	45,500	78,040	ロータリーカバー交換等 78,040
"	クボタ GB16BMAF1	H9.10.15	耕耘・畝立	15	軽油	0	0	0	
ネギ定植機	みのる OP2100	H9.10.15	定植	0	ガソリン	0	0	0	
畝立機	イセキ KC750F02	S58.5.20	耕耘・畝立 土壌消毒	0	ガソリン	0	0	0	
管理機	アグリップ NR605N	H19.6.1	土寄せ	44	ガソリン	47	6,862	17,042	爪交換 17,042
ネギ管理機	クボタ FTN7-Y	H26.11.28	土寄せ	40	ガソリン	26.5	3,869	40,003	車軸交換 40,003
土壌消毒機	有光 SD-6V	H25.12.16	土壌消毒	9	ガソリン	3	438	0	
動力運搬車	ヤンマー クローラー CG162	H19.6.6	運搬・薬散	42	ガソリン	33.5	4,891	0	
(河原試験地)									
トラクター	クボタ ZL2602DTMCSP	S57.6.11	耕耘	2	軽油	11	1,540	0	
動力運搬車	テクスイ ELL80IMPW	H14.5.20	生産物運搬・ 資材運搬	124	ガソリン	129	18,834	94,884	ブレーキ修理 94,884 シフトレバー、ミッション修理
スピードスプレーヤー	丸山 SSA-a601	H10.5.28	薬散	11	軽油	154	21,560	20,844	シート交換 20,844
動力草刈機	スター ハンマーナイフ HFC7050	H6.9.8	草刈	0	ガソリン	0	0	0	
乗用草刈機	アグリップ RM85B	H12.5.2	"	5	ガソリン	16	2,336	13,327	前輪タイヤ交換 13,327 スロットルワイヤー交換
"	フジイ MF915X	H24.6.18	"	19	ガソリン	70	10,220	21,168	前輪タイヤ交換 21,168
"	オーレック RM951	H28.5.25	"	17	ガソリン	73	10,624	0	
耕耘機	ヤンマー YA-70DCA	H7.8.31	耕耘	0	軽油	0	0	0	
(生物工学研究室)									
スピードスプレーヤー	昭信 3S 4WD6-T	H14.4.27	薬散	11	軽油	12	1,680	0	平成30年12月 27日売却
耕耘機	クボタ TG800	H10.3.30	耕耘	0	ガソリン	0	0	0	
(日南試験地)									
トラクター	クボタ A-13PMXR1	H4.8.7	耕耘・畝立 薬散	2	軽油	18	2,520	0	
"	ヤンマー 21PS AF322	H14.5.31	"	9	軽油	143	20,020	33,480	ボアプラグ、ミッション オイル 33,480
管理機	クボタ TI-55SKBVI	H3.5.15	耕耘・畝立	7	ガソリン	14	2,044	0	
"	クボタ T-80	H7.9.21	"	4	ガソリン	8	1,168	0	
"	クボタ FTN-7Y	H22.7.6	清まり・土寄せ	17	ガソリン	35	5,110	0	
動力三輪車	カワシマ SC1520DBV-SE	H6.7.4	運搬	19	ガソリン	39	5,694	0	
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.6.20	資材運搬	13	ガソリン	39	5,694	0	生工研より 配置換え
除雪機	KSR8	H3.12.9	除雪	0	ガソリン	0	0	0	平成30年10月 29日下取り
除雪機	フジイ SD1124DK-z	H30.10.29	除雪	1	軽油	20	2,920	0	平成30年10月 29日購入
除雪機	ワドー SMX1392-N	H25.12.13	除雪	2	ガソリン	6	876	0	生工研より 配置換え
計					ガソリン	1,883.5	252,389		
					軽油	2,687.6	346,700	619,888	

(平成30年12月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積 ㎡	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越 kg	生産数量		場内		処分数量				差引	備考	
					生産 購入 kg	計 kg	使用 kg	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg			金額 円
二十世紀	香水	7,000	20,000.0	0.0	20,547.4	20,547.4	943.5	19,119.6	8,583.871	0.0	484.3	19,603.9	8,583.871	0.0	
	あきつき	400	1,000.0	0.0	936.0	936.0	61.0	849.0	83,884	0.0	222.4	476.4	83,884	0.0	
	なつひめ	1,300	4,000.0	0.0	5,431.8	5,431.8	1,529.8	3,710.0	1,727,064	0.0	26.0	875.0	1,727,064	0.0	委託販売先の精算後、1月に測定
	五秋	700	3,500.0	0.0	4,040.2	4,040.2	1,979.1	1,969.0	84,100	0.0	201.1	2,061.1	84,100	0.0	
	夏そよか	1,800	2,000.0	0.0	2,180.2	2,180.2	7.8	1,715.3	1,006,474	0.0	442.1	2,172.4	1,006,474	0.0	
	秋菜	125	300.0	0.0	132.9	132.9	6.8	114.0	39,358	0.0	12.1	126.1	39,358	0.0	
	新日景	2,700	8,100.0	0.0	7,538.3	7,538.3	1,067.1	6,174.0	222,900	0.0	282.2	6,471.2	222,900	0.0	
	秋甘菜	1,200	3,000.0	0.0	2,919.9	2,919.9	1,118.9	1,718.0	68,000	0.0	83.0	1,801.0	68,000	0.0	
	その他ナシ	1,980	3,200.0	0.0	3,664.8	3,664.8	1,960.3	1,243.5	313,868	15.0	646.0	1,904.5	313,868	0.0	夏そよか、瑞鳥、瑞秋、他
	リンゴ	400	1,000.0	0.0	45.8	45.8	45.8	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
果樹研究室	ウメ	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	
	かんきつ類	1,500	200.0	0.0	345.3	345.3	192.3	153.0	18,200	0.0	0	153.0	18,200	0.0	
	その他かき	500	300.0	0.0	379.2	379.2	0.0	315.0	41,400	0.0	64.2	379.2	41,400	0.0	赤田早生、太秋、新秋
	種本部	2,000	1,000.0	0.0	1,243.1	1,243.1	448.5	578.0	287,140	0.0	216.6	794.6	287,140	0.0	
	葡萄	225	200.0	0.0	188.6	188.6	0.0	92.0	10,400	0.0	96.6	188.6	10,400	0.0	
	西条	500	400.0	0.0	392.2	392.2	0.0	334.0	46,800	0.0	58.2	392.2	46,800	0.0	
	小計	22,480.0	47,600.0	0.0	50,751.1	50,751.1	9,449.9	38,229.4	12,533,459	95.0	2,976.8	41,301.2	12,533,459	0.0	
	スイカ	4,900	23,000.0	0.0	19,832.0	19,832.0	0.0	15,025.5	2,214,696	0.0	0	15,025.5	2,214,696	0.0	
	小玉スイカ	190	480.0	0.0	410.0	410.0	0.0	306.0	38,800	0.0	104.0	410.0	38,800	0.0	
	中玉トマト	20	150.0	0.0	605.2	605.2	0.0	287.2	136,000	0.0	318.0	605.2	136,000	0.0	
ミニトマト	540	1,200.0	0.0	2,207.0	2,207.0	13.8	1,349.8	706,528	0.0	843.4	2,193.2	706,528	0.0		
アスパラ	400	400.0	0.0	271.9	271.9	0.0	167.5	172,755	0.0	104.4	271.9	172,755	0.0		
イチゴ	600	1,000.0	0.0	583.0	583.0	0.0	482.1	316,000	0.0	100.9	583.0	316,000	0.0		
イチゴ苗	187	400.0	0.0	540.0	540.0	0.0	540.0	216,000	0.0	0	540.0	216,000	0.0	単位:本	
野菜研究室	ブロッコリー	4,520	3,000.0	0.0	1,792.2	1,792.2	0.0	1,059.0	241,088	0.0	733.2	1,792.2	241,088	0.0	
	ホウレンソウ	375	240.0	0.0	7.2	7.2	0.0	6.4	1,600	0.0	0.8	7.2	1,600	0.0	
	コマツナ	240	150.0	0.0	115.9	115.9	0.0	66.8	15,100	0.0	49.1	115.9	15,100	0.0	
	キャベツ	600	1,600.0	0.0	1,510.0	1,510.0	0.0	1,205.0	92,536	0.0	305.0	1,510.0	92,536	0.0	
	ミズナ	187	120.0	0.0	45.0	45.0	0.0	39.2	4,300	0.0	5.8	45.0	4,300	0.0	
	チンゲンサイ	240	150.0	0.0	89.6	89.6	0.0	60.0	5,100	0.0	29.6	89.6	5,100	0.0	
	小計	12,999.2	31,890.0	0.0	27,469.0	27,469.0	13.8	20,055.5	4,160,503	0.0	7,399.7	27,452.2	4,160,503	0.0	単位:本
	ストック	200	2,500.0	0.0	2,705.0	2,705.0	150.0	1,432.0	33,054	0.0	1,123.0	2,555.0	33,054	0.0	単位:本
	トルコキキョウ	200	1,500.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	単位:本
	ユリ	400	4,000.0	0.0	4,190.0	4,190.0	600.0	1,946.0	101,504	150.0	1,594.0	3,590.0	101,504	0.0	単位:本
花き研究室	花壇苗	200	2,000.0	0.0	1,000.0	1,000.0	0.0	0	0	0.0	0	1,000.0	0	0.0	単位:鉢
	小計	1,000.0	10,000.0	0.0	7,893.0	7,893.0	750.0	3,278.0	134,558	1,150.0	2,717.0	7,145.0	134,558	0.0	
	スイカ	1,700	1,000.0	0.0	1,291.5	1,291.5	0.0	888.0	202,824	0.0	403.5	1,291.5	202,824	0.0	
	小玉スイカ	100	400.0	0.0	36.0	36.0	0.0	24.0	3,294	0.0	12.0	36.0	3,294	0.0	
	サトイモ	100	100.0	0.0	67.1	67.1	0.0	56.0	5,800	0.0	9.1	67.1	5,800	0.0	
	その他野菜	200	150.0	0.0	288.8	288.8	0.0	264.5	51,090	0.0	24.3	288.8	51,090	0.0	
	ミニトマト	500	300.0	0.0	228.2	228.2	0.0	180.0	143,100	0.0	48.2	228.2	143,100	0.0	
	ナガイモ	400	1,000.0	0.0	549.5	549.5	0.0	540.0	133,968	0.0	9.5	549.5	133,968	0.0	
	抱ほりつ娘	600	1,000.0	0.0	581.9	581.9	0.0	581.0	13,800	0.0	0.9	581.9	13,800	0.0	
	ナス	3,450	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	
環境研究室	ホウレンソウ	500	100.0	0.0	81.8	81.8	0.0	69.2	17,971	0.0	22.6	81.8	17,971	0.0	
	ブロッコリー	1,800	100.0	0.0	299.6	299.6	0.0	285.0	0	0.0	14.6	299.6	0	0.0	委託販売の精算後、1月に測定
	アスパラガス	900	500.0	0.0	552.4	552.4	0.0	367.3	409,327	0.0	185.1	552.4	409,327	0.0	
	タマネギ	50	100.0	0.0	309.4	309.4	0.0	290.4	17,400	0.0	19.4	309.4	17,400	0.0	
	ピーマン	100	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	
	白ネギ	50	100.0	0.0	144.0	144.0	0.0	130.0	7,000	0.0	14.0	144.0	7,000	0.0	
	レタス	30	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	
	小計	10,580.0	47,400.0	0.0	44,302.0	44,302.0	0.0	3,667.0	1,005,574	0.0	763.2	44,302.0	1,005,574	0.0	

白ネギ	7,000	13,000.0	0.0	8,880.0	8,880.0	0.0	3,854.0	993,886	20.0	0	4,996.00	8,880.0	993,886	0.0	200.0	種芋として保管
サツマイモ	200	300.0	0.0	300.0	300.0	0.0	0.0	0	100.0	0	0.00	100.0	0	0.0	0.0	
サトイモ	100	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.00	0.0	0	0.0	0.0	
ニンジン	1,000	7,000.0	0.0	4,880.0	4,880.0	0.0	3,230.0	169,710	0.0	0	1,650.00	4,880.0	169,710	0.0	0.0	
カボチャ	200	100.0	0.0	107.0	107.0	0.0	80.0	5,400	0.0	0	27.00	107.0	5,400	0.0	0.0	
白ネギ苗	0	0.0	0.0	3,600.0	3,600.0	0.0	3,600.0	27,000	0.0	0	0.00	3,600.0	27,000	0.0	200.0	単位:本
小計	8,500.0	20,500.0	0.0	14,167.0	14,167.0	0.0	7,174.0	1,195,996	120.0	0.0	6,673.0	13,967.0	1,195,996	0.0	200.0	
奮有	1,500	3,000.0	0.0	2,965.0	2,965.0	85.0	2,440.0	92,492	0.0	0.0	440.0	2,880.0	92,492	0.0	0.0	
西条	2,500	3,000.0	0.0	3,543.0	3,543.0	50.0	3,216.0	598,470	0.0	0.0	277.0	3,493.0	598,470	0.0	0.0	
河原試験地	1,500	1,500.0	0.0	1,581.0	1,581.0	166.0	905.9	25,600	0.0	0.0	509.1	1,415.0	25,600	0.0	0.0	
種太郎	2,000	4,000.0	0.0	4,755.5	4,755.5	1,048.5	3,149.0	1,843,975	30.0	0.0	528.0	3,707.0	1,843,975	0.0	0.0	
その他のカキ	7,400.0	2,500.0	0.0	2,258.0	2,258.0	100.0	1,213.0	252,900	3.0	0.0	942.0	2,158.0	252,900	0.0	0.0	本秋・早秋・新秋、甘秋、伊豆他
小計	14,900.0	14,000.0	0.0	15,102.5	15,102.5	1,449.5	10,923.9	2,813,437	33.0	0.0	2,696.1	13,653.0	2,813,437	0.0	0.0	
ナガイモ	683	1,830	556.0	113.00	669.0	434.00	196.5	27,506	10.0	0	28.5	235.0	27,506	0.0	0.0	
砂丘地農業 研究センター	957	2,565	1,350.0	814.00	2,164.0	129.00	1,307.5	341,440	10.0	0	105.5	1,423.0	341,440	612.0	612.0	種芋、出荷予定
ブドウ	2,571	1,800	0.0	1,651.40	1,651.4	194.80	1,060.7	1,077,676	15.0	0	380.9	1,456.6	1,077,676	0.0	0.0	
ラッキョウ	1,168	1,200	0.0	1,304.60	1,304.6	479.00	52.3	10,589	100.0	0	673.3	825.6	10,589	0.0	0.0	プリティルビー含む
小計	5,379.0	7,395.0	1,906.0	3,883.0	5,789.0	1,236.8	2,617.0	1,457,211	135.0	0.0	1,188.2	3,940.2	1,457,211	0.0	612.0	
白ネギ	1,800	6,000.0	0.0	860.0	860.0	0.0	771.0	77,848	0.0	0	89.0	860.0	77,848	0.0	0.0	
トルコギキョウ	100	2,500.0	0.0	840.0	840.0	0.0	240.0	12,312	0.0	0	600.0	840.0	12,312	0.0	0.0	
トマト	840	4,000.0	0.0	6,420.0	6,420.0	23.0	3,784.0	1,396,548	0.0	0	2,613.0	6,397.0	1,396,548	0.0	0.0	
フロコリー	1,200	840.0	0.0	814.3	814.3	814.3	0.0	0	0.0	0	0.00	0.0	0	0.0	0.0	
その他野菜	300	800.0	0.0	626.8	626.8	141.8	0.0	0	0.0	0	485.0	485.0	0	0.0	0.0	
小計	4,240.0	14,140.0	0.0	8,721.1	8,721.1	979.1	4,555.0	1,486,708	0.0	0.0	3,187.0	7,742.0	1,486,708	0.0	0.0	
計(kg)	80,078.2	150,265.0	1,906.0	124,523.9	126,429.9	13,129.1	87,221.8	24,397,576	383.0	0.0	24,884.0	112,483.8	24,397,576	0.0	812.0	
計(本)	0	0	0	12,875.0	12,875.0	750.0	7,658.0	389,870	1,150.0	0.0	3,317.0	12,125.0	389,870	0.0	0.0	
金額総計								24,787,446					24,787,446			

注)農入表の金額は24,284,748円
だが、農協ほかの入金が遅れる
ため相違が生じる。

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)ナシ栽培の未来を見据えた病害虫防除対策		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成30～33年度		(予算額) 支出済額	(2,729,000円) 600,914円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシの微小害虫に対する防除強化対策の確立	本場	ほ場40a	ナシの休眠期防除の体系を検討する。	(成果) ・クワコナカイガラムシに対し、効果の高い体系が明らかになった。 (課題) ・その他の対象害虫を含めた検討を実施していく。年次間差の確認も必要。
枝幹に発生する病害虫の実態解明と防止技術の実証	本場 現地	ほ場70a 現地発生園適宜	木材腐朽菌に関する情報収集を広く行う。	(成果) ・場内および現地園において、木材腐朽菌の発生率、子実体等について基礎知見を収集した。 (課題) ・国内でも取組例がほとんどない案件であるため、一歩ずつ進める必要がある。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(委)新農薬適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額) 支出済額	(4,872,000円) 2,756,486円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病害虫の防除薬剤の実用化	本場 河原試験地	ほ場34a	果樹の新規薬剤の防除効果等を検討し、各果樹の防除暦を編成する。	(成果) ・ナシの黒斑病、黒星病、ハダニ類、アブラムシ類などについて新規薬剤の効果が明らかとなった。実用性の高い薬剤は、県基準防除暦等に記載した。 (課題) ・農薬の再評価制度導入に対応した農薬適用拡大推進。
野菜・花き病害虫の防除薬剤の実用化	本場 弓浜砂丘分場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤の防除効果等を検討し、有効薬剤の適用拡大を図る。	(成果) ・スイカのうどんこ病、ネギのべと病、さび病、黒腐菌核病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、ネダニ類、ブロッコリーの黒すす病、ナガイモの炭疽病等に対する新規薬剤の効果が明らかになった。 (課題) ・本県特産農産物の生産上問題となる病害虫の更なる農薬適用拡大推進。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(委)農業における花粉媒介昆虫等の積極的利活用技術の開発		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成30～33年度		(予算額) 支出済額	(997,000円) 387,097円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシの花粉媒介昆虫相の解明と送粉効率の高い昆虫の探索および評価	本場	ほ場70a	ナシ自然受粉樹の結実要因を明らかにする。 ナシの開花時期に多い昆虫種群を明らかにする。	(成果) ・ナシの自然受粉の結実要因は虫媒によるものと考えられ、その時期に捕獲されるハチ目、ハエ目がその結実に寄与していると考えられた。 (課題) ・年次、地域間差等の確認。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)園芸産地を守る難防除病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成23年度 ～ 平成32年度		(予算額) 支出済額	(2,081,000円) 1,504,848円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ブロッコリーの難防除病害に対する防除対策の確立	本場	ほ場6a	ブロッコリー黒すす病の実態を明らかにする。	(成果) ・各生育段階における問題点、発生状況を明らかにした。 (課題) ・各生育段階で考えられる防除対策を個別に検討し、組み立てる必要がある。
ミニトマトの青枯病の防除対策の確立	本場	ほ場5a	ミニトマト青枯病について、有効な防除対策を確立する。	(成果) ・青枯病に対する有望な耐病性台木が明らかになった。 ・キノコ腐菌床による効果検証も継続している。 (課題) ・個別の技術の組立てが必要。
アスパラガス病害対策	本場	ほ場6a ハウス3a	アスパラガス茎枯病、斑点性病害について、有効な防除対策を確立する。	(成果) ・斑点病に効果のある薬剤がある程度明らかになった。 (課題) ・茎枯病の甚発生により試験成立が困難となったため、ほ場更新が必要。
ナシの難防除病害虫に対する防除技術の確立	本場 現地ほ場	ほ場40a 現地ほ場30a	ナシの黒星病、ハダニ類等に対する防除対策を確立する。	(成果) ・数種病害に対し、亜リン酸資材を用いた被害軽減効果について明らかになってきている。 ・新甘泉における黒星病感染時期や感染後発病するまでの日数等を明らかにした。 ・新規殺ダニ剤の問題点を明らかにした。 (課題) ・農業ではない資材の取扱いを考える必要がある。 ・殺ダニ剤の抵抗性獲得回避が困難。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(補助)鳥取のナシ産地再生に向けた画期的栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(1,399,000円) 621,315円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ジョイント仕立ての栽培体系の確立	本場	ほ場 50a	本県育成品種のジョイント栽培技術を確立する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 育苗時の施肥方法の省力化について検討したところ、コーティング肥料140日タイプを用いることで施肥回数、窒素量がともに削減出来ることが示唆された。 ジョイント栽培の新しい方法として期待されているV字ジョイントの棚角度が果実品質に及ぼす影響を調査したところ、40度～60度の範囲では差は認められなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> V字ジョイントの角度と品質の関係については継続して調査が必要であり、新規課題において試験を行う。
自家和合性品種の特性を活用した省力栽培体系の確立	本場 現地ほ場	本場ほ場 30a 現地園 3か所 (大山町、湯梨浜町、河原町)	「新甘泉」・「秋甘泉」混植による受粉作業の省力化の検討	<ul style="list-style-type: none"> 自然受粉栽培の結実率にはほ場間差が認められた。 現地試験においても結実率にはほ場間差があり、植栽条件が良いような園でも悪い事例があった。このことから結実の良否は植栽だけでなく園地の周辺環境なども影響しているものと考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほ場の周辺環境や整枝方法が自然受粉の結実率に及ぼす影響を明らかにする必要がある。新規課題において試験を行う。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(補助)ナシ作り新時代を拓く新品種の特性解明による高品質果実安定生産技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額)	(3,499,000円)
			支出済額	1,742,325円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
新品種の生育特性解明	本場	ほ場 100a	新品種の特性に応じた栽培管理技術を確立する	(成果) ・「秋甘泉」の裂皮の発生は樹齢の大きな木ほど少ないことが明らかになった。 ・「新甘泉」の変形硬化症状は粗摘果の時期を満開後40日目ごろから行うことにより軽減出来る可能性が示唆された。 (課題) ・裂皮、変形硬化症状とも発生原因が明らかではない。新規課題において引き続き調査を行う。
新品種の早期多収、省力整枝法の確立		ほ場 50a	新品種の特性に応じた整枝法を確立する。	(成果) ・「新甘泉」のジョイント栽培は水平、V字ジョイントとも、植栽4年目で慣行の仕立て方よりも収量、着果量が多く、早期多収性があることを明らかにした。また、V字ジョイントはその効果がより高かった。 (課題) ・慣行仕立てとジョイント仕立て、さらにV字ジョイント仕立ての作業性の差について明らかにする必要がある。新規課題において引き続き調査を行う。
新品種の高品質果実の安定生産技術の確立		ほ場 30a	品種に適した栽培管理技術を確立する	(成果) ・「なつひめ」のエテホン処理は、糖度の上昇効果が不十分で有り、日持ち性も劣ることから、環状はく皮の代替技術として用いるのは難しいと考えられた。 ・「なつひめ」の環状はく皮処理の処理幅は1.1cmでも2.5cmと同等の効果が認められた。また、処理時に木部に深く傷が入るとカサの形成が不良になりやすいことが明らかになった。 (課題) ・環状はく皮により糖度は上昇するが、食味は悪い場合があり、その原因を調査する必要がある。新規課題において引き続き調査を行う。
新たな販売方法に対する新品種の適応性の検討		ほ場 30a	輸出、加工への適性調査を行う	(成果) ・「新興」輸出用穂木取り園を想定した植栽方法と仕立て方は、植栽3年目においても、ポット栽培のまま植え付けする方法の製品率が高く、低樹高仕立てにすることにより省力的に穂木採取が行えた。 (課題) ・より製品率を高める方法としてエスレル処理との組み合わせなどを検討する必要がある。新規課題において引き続き調査を行う。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)アスパラガスの産地拡大を目指した省力・安定栽培技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成27年度 ～平成31年度		(予算額) 支出済額	(554,000円) 357,600円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1. 定植時土壌改良の省力化 (H27で終了)	本場	露地ほ場 1.0a	・土壌改良方法による収量性の経年変化の確認(定植5年目)・	(成果) ・盛り堆肥法は慣行土壌改良と同等以上の収量性があり、定植5年目も効果が認められ、農業試験場の試験成果と併せて普及に移す技術とした。 (課題) ・目標達成したため終了(H28年)
2. 秀率向上技術の確立 (H27～H31)	本場	露地ほ場 2.0a	・秀品率向上のため、土壌水分条件、施肥管理方法について検討する。	・夏場の1回当たりのかん水量は、20mmと40mmを比較したが、収量品質に違いがなく、20mmが十分量だと考えられた。20mm灌水により、地下40cm深まで水分が十分供給され、秀品率を高く維持できた。 ・慣行施肥に加えて液肥葉面散布の効果、基肥一発体系に加え立茎時に追肥を増肥する効果について検討したが、収量品質に与える影響は判然としなかった。本年が4年目の収穫であったが、昨年までの株養成の違いから区間間の収量差が大きく、本ほ場での試験継続は困難である。 (課題) ・試験に必要な均一な生育を維持することが困難で試験研究に支障が出るため試験中止する。次年度は新しい栽培方法「採りっきり栽培」について検討する。
3. 鳥取型簡易栽培技術の確立 (H27～H31)	本場	露地ほ場 22㎡ ガラス室 16㎡	・簡易栽培(フレコンバッグ栽培)の立茎数とかん水量の検討 ・簡易栽培(フレコンバッグ栽培)の定植3年目の収量。	(成果) ・フレコンバッグ栽培における立茎数とかん水量について検討し、立茎数は3本、かん水量は6ℓ/株で収量が多かったが、全体の収量は低く、細物が多かった。 ・定植3年目における収量は、露地栽培、雨よけ栽培ともに収穫物の半分以上は細物で収量は低く、フレコンバッグの劣化により長期栽培も期待できないことが明らかとなった。 (課題) ・栽培に要するコストと労力が必要で、収量も低いことから実用性はないと判断し、試験の継続を中止した(H29年)

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)黒ボク地域における野菜の生産拡大と高品質生産技術の確立		担当室別	野菜研究室	
実施計画期間	平成29年度 ～平成33年度		(予算額) 支出済額	(1,117,000円) 734,400円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
露地野菜生産拡大技術の確立 (H29～33)	本場	露地ほ場 48a	1)ブロッコリー安定多収技術の確立 ・作型別適品種の選定 ・加工業務用栽培の品種、作型の検討 ・秋冬どりブロッコリーの収穫予測技術の確立	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月、10月、12月、2月どり作型で有望とみられる品種を選定した。 ・5月どり作型でマルチ栽培は不織布のべた掛け栽培と同等の効果を得られると考えられた。 ・加工用のカット冷凍野菜向けに、花蕾を通常より肥大させても品質が高く、収量性の高い品種を選定した。 ・秋冬どり品種‘おはよう’の収穫予測技術を開発するため、積算気温で収穫日を予測するモデルを作成した。また、収穫予測が現地ほ場に適用するか調査し取りまとめた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各作型の適品種選定の継続 ・加工業務用栽培の作型検討 ・収穫予測技術の現地適応性の検討 	
施設利用野菜の高品質多収技術の確立 (H29～33)	本場	ハウス15a	1)抑制ミニトマトの生産安定技術の確立 ・単為結果性ミニトマトの特性解明と栽培方法確立 ・抑制ミニトマト耐病性台木の収量性の評価 2)軟弱野菜の増収技術の確立 ・夏播きホウレンソウの品種 ・葉菜類の多収技術(コマツナ、チンゲンサイ)	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単為結果性ミニトマトの栽培方法として、時期的なホルモン処理の実施と整枝方法の組合せで、増収効果を確認した。 ・抑制ミニトマトにおけるつやなし果の発生動向を取りまとめ、多収条件下では発生が極めて少ないことを確認した。 ・抑制ミニトマトの増収技術として、若苗定植すると増収効果が認められた。 ・ミニトマトを青枯れ病耐病性台木に接いでも収量性に問題が無いことを確認した。 ・ホウレンソウ品種について取りまとめ中である。 ・コマツナとチンゲンサイの有望品種を選定した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単為結果性ミニトマトの多収栽培の実証 ・つやなし果発生機構の解明 ・ミニトマト耐病性台木の収量性評価 ・ホウレンソウ有望品種の選定 	

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)簡易・迅速土壌診断による野菜の適正施肥技術の確立	担当室別	野菜研究室	
実施計画期間	平成26年度 ～平成33年度	(予算額) 支出済額	(935,000円) 603,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
土壌診断促進技術の開発(H26～33)	本場 および 現地ほ場	現地ほ場10ヶ所	<ul style="list-style-type: none"> ・水抽出による土壌分析値の実用性を確認する(窒素、リン酸、カリ)。 ・スイカー・ブロックリー体系の現地土壌養分実態を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県黒ボク土(現地及び場内ほ場)において、開発中の水抽出方法と従来方法で、可給態窒素、硝酸態窒素、リン酸、カリを分析した結果、いずれも相関関係が認められ、土壌養分の水抽出での分析が可能となった。 ・現地ほ場10カ所のスイカ作付前の土壌を採取し、土壌養分を分析した。結果は取りまとめ中である。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水抽出方法による簡易土壌分析の活用とマニュアル化 ・黒ボク以外の土壌での水抽出方法の実用性の評価
土壌養分に応じた施肥基準の作成(H26～33)		露地ほ場12a	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥施用下における適正窒素施用量を明らかにする。 ・土壌蓄積リン酸、加里の有効利用基準を明らかにする。 ・スイカー・ブロックリーの養分吸収特性と肥効実態を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の試験結果から、スイカにおいて堆肥施用量8m³/10aでは窒素6kg、4m³/10a施用では窒素12kgが適正であった。スイカ後作のブロックリーにおいては、堆肥施用量8m³/10aでは窒素12kg、4m³/10a施用では窒素14kgが適正であった。 ・スイカでは、リン酸60mg、カリ100mg、ホウレンソウでは、リン酸55mg、カリ30mgの土壌蓄積があれば無施用で栽培でき、減肥の目安に利用できると考えられた。 ・スイカー発肥料改良型の肥効特性、収量品質を調査し、実用性が認められた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可給態窒素、硝酸態窒素の施肥代替量 ・スイカー発肥料改良型の現地での評価

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)露地を有効利用する花きとシバの省力・高付加価値栽培法の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成26年度 ～ 平成30年度		(予算額) 支出済額	(1,507,000円) 1,130,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シテッポウユリ(季咲き)の省力化による長期出荷体系の確立	本場	ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・シテッポウユリの盆出荷作型の品質向上に向けた施肥方法の検討 ・品種や苗冷蔵等を組み合わせた秋彼岸出荷作型の確立。 ・露地における収穫期分散法の確立。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫時輪数は6月下旬以降の中位茎径と関係が深く、茎径が太いと多輪が増加する傾向がみられ、初期肥料を削減し、堆肥量を慣行の10tから5tに半減すると、多輪の発生を減らすことが出来た。 ・彼岸栽培において、定植前の5～13℃苗冷蔵処理で9月彼岸高需要期の採花率が高まった。 ・彼岸出荷で‘F1オーガスタ’に変わる品種として、試作系統‘No 37’が有望だった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質向上に向けた施肥法の継続検討。 ・品種、苗冷蔵、定植日等を組み合わせて、露地長期出荷栽培体系を確立する。 ・新規課題で検討を継続する。
実付き枝物における省力・高付加価値栽培技術の確立	本場	ほ場 5a	<ul style="list-style-type: none"> ・品目に応じた誘引法を検討する。 ・省力化で高付加価値商品の栽培技術を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹棚を利用して品質を向上し、収量を増加する改良整枝を検討中。 ・収穫後の葉もぎに労力がかかる。ツルウメドキの常温乾燥36時間処理で8割以上が落葉し、落果への影響は見られなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに省力で高品質化可能なツルウメドキの一字整枝や、地這い誘引等による樹形管理法の確立。 ・簡易落葉法の継続調査。 ・サルトリイバラの省力誘引と簡易落葉法の検討。 ・新規課題で検討を継続する。
シバオリジナル育成品種等の生産性向上をめざした栽培技術の確立	本場	ほ場 5a	<ul style="list-style-type: none"> ・‘グリーンバードJ’の保湿資材や鎮圧を組み合わせた砂土栽培法の検討 ・‘グリーンバードJ’沈み症(仮称)の発生原因の解明と対策法の検討 ・パーチカルカット等によるシバ黄化症等の発生回避技術の確立 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂土表層に保水性の高い靱殻くん炭や、高分子吸収体を施用すると、根が表層付近に集まった。 ・‘グリーンバードJ’の秋施肥を極端に控えたり、特定の除草剤を連用すると、春季の葉長が短くなり生育が抑制された。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・‘グリーンバードJ’に対する適正な施肥量や、生育を抑制する除草剤の散布時期や散布量等を明らかにする。 ・新規課題で検討を継続する。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)秋冬期に低コストで高品質化を実現する切り花安定生産技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成28年度 ～平成31年度		(予算額) 支出済額	(1,798,000円) 1,348,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シンテツポユリ(秋冬出荷)のプラスチック・花首徒長対策の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・抽台率低下の原因を明らかにし、抽台促進技術を検討する。 ・プラスチック減少のための管理方法を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分計を灌水管理の目安として、定植直後からpF1.6以上で灌水すると、抽台率が高まり、切り花品質が向上した。ただし、プラスチックの発生は減らなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象に左右されない抽台向上技術の検討。 ・秋冬出荷栽培に適した品種を選定する。 ・新規課題で検討を継続する。
トルコキキョウ(秋冬出荷)草丈伸長技術の確立	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・EOD保温の目標温度と保温時間の検討 ・EOD保温+EOD光照射の併用効果 ・EOD処理効果の高い品種の検索 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月下旬定植でEOD光照射とEOD保温の併用によって、これまで暖房が無いと開花しないとされていた12月出荷が可能な品種として'ロペラピンク' 'ボレロホワイト' 'セレブホワイト'を選定した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FR光照射やEOD保温法を検討し、開花促進や切り花伸長に最も効果的な処理法を明らかにする。 ・12月出荷可能な品種を選抜する。 ・新規課題で検討を継続する。
ストックにおけるLED-FR照明の効果的な利用方法の確立	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・FR照明、遮光資材の利用による開花調節法の検討 ・土壌水分やECの推移が草姿に及ぼす影響を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花芽分化前の遮光で1か月程度の開花抑制となり、葉数が増加した。さらに遮光後に電照を行うことで、切り花長が長くなった。 ・大型ポットでの予備試験では、花芽分化以降にpF2.6より乾燥した管理を行うと品質が低下した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次の気象変動に対応できる開花促進・抑制方法のデータ蓄積、利用方法のマニュアル化。 ・かん水、施肥管理改善による電照時のポリューム低下の軽減。 ・新規課題で検討を継続する
EOD処理に反応性の高い品目の栽培実用化	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・品質向上に効果的なEOD光照射法の検討 ・EOD保温の効果を最大限に高める処理法の検討 ・処理の組み合わせによる実証展示 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスターはEOD光照射で開花が早まり、草丈が伸長した。 ・EOD光照射で暖房を用いないアスターの秋冬期出荷を試みた。光照射で草丈が40%以上伸長し、開花が早まった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果が高まる放射照度の検討。 ・新規課題で検討を継続する。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)EOD反応を活用した花壇苗の低コスト安定生産技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成29年度 ～平成32年度		(予算額) 支出済額	(1,423,000円) 1,067,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
花壇苗におけるEOD照射の検討	本場	ハウス 4a	・主要品目毎のEOD照射時間+わい化剤濃度の組み合わせを明らかにする。	(成果) ・花き類46品目のうち36品目はEOD照射で開花が促進し、草丈が伸長した。 (課題) ・ただし、EOD照射を花壇苗栽培で利用するには、草姿をコンパクトにする検討が必要。 ・新規課題で検討を継続する。
花壇苗におけるEOD加温の検討	本場	ハウス 4a	・主要品目毎のEOD加温(保温)管理法を明らかにする。 ・簡易加温(保温)トンネルで、温度管理法を実証する。	(成果) ・花き類46品目のうちガーベラなど24品目は、EOD加温で開花が促進し、花数が増加した。 (課題) ・EOD保温の効果を高める処理法を明らかにする。 ・新規課題で検討を継続する。
EOD栽培による宿根性鉢物の栽培期間短縮	本場	ハウス 4a	・EOD処理で、栽培期間が大幅に短縮する宿根草10品目およびシバ管理法を明らかにする。	(成果) ・カンパニュラ、ラベンダーは播種から開花まで時間がかかる。 ・これらを晩秋まで露地で管理して低温に遭わせてからハウスに取り込むと、慣行の露地栽培に比べて1ヶ月以上開花が早まった。 (課題) ・品目に応じた、効果的な処理方法を明らかにする必要がある。 ・新規課題で検討を継続する。
EOD加温+EOD照射の組み合わせによる超低コスト栽培法の確立	本場	ハウス 4a	・栽培期間を20%短縮、加温コストを30%削減する超低コスト栽培法を確立し、マニュアル化する。	(成果) ・トルコギキョウでは、EOD加温と照射の組み合わせで、慣行加温に比べ暖房費を30%削減しながら、栽培期間は約1ヶ月早まった。 (課題) ・暖房を用いないで開花を早めるEOD保温法と、EOD照射の組み合わせによる効果を明らかにし、栽培実証を行う必要がある。 ・新規課題で検討を継続する。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(受)全日本花卉品種審査会(切り花ストック)受託事業		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成30年度		(予算額) 支出済額	(129,000円) 129,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ストック優良新品種の選定	本場	ハウス2a	・秋冬出荷作型で新品種の適応性を検討し、優良品種を選定する	(成果) ・12月上旬に審査会を開催し、本県秋冬作型に適した品種として5品種が選定された (課題) ・「成果情報」等で現場に結果を伝える。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(補助)市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸新種の育成		担当室別	果樹研究室、河原試験地、砂丘地農業センター、野菜研究室、花き研究室
実施計画期間	平成28年度 ～平成32年度		(予算額) 支出済額	(5,726,000円) 4,295,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナン新品種の育成	果樹研究室	場内露地ほ場 10a	・ナン新品種、新系統の鳥取県における適応性を検討する。	(成果) ・63系統について果実調査を行い、2系統を1次選抜、1系統を2次選抜、2系統を3次選抜、1系統を4次選抜した。4次選抜系統の中から極早生の1系統を高次選抜系統としてより詳細な調査を行うこととした。 ・5種類の組み合わせで新たに交雑を行い893個の種子を獲得した。 (課題) ・継続して調査を行うとともに、新たに交雑した個体については場定植前に黒星抵抗性について遺伝子診断を行う。
カキ新品種の育成	河原試験地	場内露地ほ場 10a	・育種系統の特性調査を行い、選抜を進める。	(成果) ・平成18年度に交雑育種を行った17系統の果実の品質調査を行った。食味がやや優れる系統があったが、外観・生理障害等問題が多く全系統を淘汰した。 ・平成28年度に交雑育種を行った果実から種子を播種し、135本の実生苗を育成中。 (課題) ・継続して特性調査を行う。
新しい青ブドウの選抜	砂丘地農業研究センター	場内ハウス 3a	・12g以上で糖度18度以上の青ブドウの創出	(成果) ・平成15、16年に育種した27系統から、糖度が高く(20度以上)、盆前出荷可能な'04HS-2'を選抜し、平成28年から無加温ハウスで育成中。平成30年追加で植栽した。 ・'04HS-2'は、棚トンネルハウスでのジベレリン処理試験で、1回、2回処理ともに種子の混入、コルク状の果面アザ等の問題点があった。 (課題) ・無加温ハウス内の若木育成(平成31年初着果予定)。 ・種子の混入、コルク状アザの発生状況確認と、改善策の検討。
スイカ新品種の育成と実用化		場内ハウス4.4a 現地ほ場 3a	・有望系統の現地における栽培適性確認。 ・黒点根腐病に強いスイカ台木の育成。	(成果) ・スイカつる割病抵抗性の高い系統の中から、慣行の台木品種「どんなもん台」よりも黒点根腐病に強いと考えられる2系統を選抜した。 (課題) ・黒点根腐耐病性形質の導入。 ・有望系統の黒点根腐病に対する耐病性を検討する。
イチゴ新品種の育成と実用化	野菜研究室	場内ハウス4.0a	・多収で食味の良いイチゴ育成のための、交雑実生による育成と選抜。 ・育成品種の品種登録申請 ・育成品種の栽培特性解明	(成果) ・有望系統として3系統を4～6次選抜した。 ・平成30年10月にイチゴ新品種「とっておき」が品種登録された。また、韓国と中国に品種登録出願された。 ・イチゴ新品種「とっておき」の栽培特性をまとめた。 (課題) ・有望系統を継続して交配、選抜する。 ・「とっておき」の特性解明と栽培方法の確立

(平成30年12月31日現在)

シバ優良系統の育成	花き研究室	場内露地ほ場 3a	・葉枯病耐性・生育旺盛・揃いの良いコウライシバの育成	(成果) ・地下部の生育が旺盛で株張りが早く、紅葉が非常に遅い系統を選抜した。 ・この系統は、ゴルフ場の葉枯病常発場所に定植しても発病せず、耐病性が高いと判断した。
				(課題) ・継続調査。
実つき枝物の優良系統の育成	花き研究室	場内露地ほ場 2a	・既存品種が皆無であることから、本県で確立した樹形管理に適した品種を育成する。	(成果) ・ツルウメドキは実が大きく、実数が多い「T-10」を有望と認めた。 ・サルトリイバラは県内自生種の中から、棘が極めて少ない系統を選抜した。
				(課題) ・品種登録のための生育調査
リンドウの新品種育成	花き研究室・日南試験地	花き研究室ハウス10㎡露地ほ場2a	盆咲き品種の開発	(成果) ・現地試作で評価が高かった極早生系統と同等の組合せによる交配系統の苗を新たに現地圃場に定植し、定植2年目の特性調査を行った。 ・現地試作で評価が高かった極早生系統と近似の親系統の苗を育成するとともに、親系統の採種を行った。 ・新たな交配組合せの種子を採種し、育苗・定植して2年目の特性調査を行った。
		日南試験地 0.6a	日持ちの良い三倍体リンドウの育成	(成果) ・24年度に得た四倍体と二倍体の交雑個体を無菌播種した。 ・26年度に交雑個体が三倍体個体であることを確認した。 ・28年度に三倍体の切り花品質評価を行った。現在、挿し芽増殖法を検討中。
ユリの新品種育成	花き研究室	花き研究室ハウス: 80㎡	小球開花性の新奇性の高いユリ品種の育成	(成果) ・小球開花性選抜系統「鳥鱗1号」の特性解明のため、栽培特性調査を行い、鱗片重は1g以上の苗を定植前4週間以上苗冷蔵すると抽台率が高まった。 ・「鳥鱗1号」は平成30年2月に品種登録出願を行い、同年2月13日付けて出願受理された。
		花き研究室ガラス温室20㎡ハウス50㎡	秋冬作型に適するシンテツポウユリの開発	(成果) ・18年度までに既存のシンテツポウユリ×タカサゴユリ自生種F1を交雑し種子を得た。 ・19～27年度は系統内で集団育種法により種子を得た。目標形質(短日開花性、花向き等)を持つ優良系統の選抜の選抜を行い、平成22までは葉の細いものが多かったが、徐々に葉が広く、花が上向きの系統が増えた。 ・30年度は前年度選抜で得られた系統の中から、輪数が多い系統を選抜し、季咲きおよび秋冬作型で採取を行った。
				(課題) ・「鳥鱗1号」の秋冬栽培における抽台の安定化
				(課題) ・輪数増加と系統内形質揃いの向上

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)砂丘地における特産野菜の新品種の育成		担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	27年度 ～ 32年度		(予算額) 支出済額	(3,041,000円) 509,000円	
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 ラッキョウ新品種の育成	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・本場培養実験室・現地ほ場	西園ほ場13.5㎡	灰色かび病耐病性系統について、種球増殖を図るとともに収量性等の特性調査を行う。	(成果)供試した5系統のうち、1系統を除き「大菜1号」より収量が少なかった。	(課題)継続して特性調査を行う。
(1)特性評価・選抜 ア 灰色かび病耐病性品種の三次選抜				(成果)T系統から1系統、F系統から1系統が、分球数が多く収量性に優れていたため有望と思われた。これらを含めた5系統は収量等の年次変動が少なかった。	(課題)選抜した5系統の特性調査を継続する。
イ 乾腐病耐病性系統の種球増殖率調査 ウ 現地有望系統KSM系統の種球増殖率調査		西園ほ場12㎡	乾腐病耐病性系統のT系統およびF系統と現地優良系統KSMについて収量性等の特性調査を行う。	(成果)T系統から1系統、F系統から1系統が、分球数が多く収量性に優れていたため有望と思われた。これらを含めた5系統は収量等の年次変動が少なかった。	(課題)選抜した5系統の特性調査を継続する。
2 ナガイモ新系統の育成		西園ほ場56㎡	ナガイモ有望系統の萌芽性、収量性、品質について特性を評価する。	(成果)「1u61」;種芋の種類別による収量性には差がなかったことから、栽培管理上切芋(150g)での栽培がよいと考えられた。しかし、本年度は芋重が500g程度と小さかった。「NSOH117」;切芋での萌芽性が劣り、芋重は種芋の種類にかかわらず650g前後と小さかった。	(課題)「1u61」を最有望系統として位置づけ、特性に応じた栽培法の検討を行う。「NSOH117」は切芋萌芽性が悪く、品質に不安があるため試験終了とする。
(1)選抜系統の特性評価 ア 切芋・定芽の違いによる収量・品質等特性調査	妻波・由良・西園現地ほ場75㎡	現地にて生産者慣行で栽培された「1u61」について評価する。	(成果)芋重が500g程度と小さく、圃場によっては障害芋の発生が多かった。しかし、地上部片付けの手間が少なく、掘取りの作業性が良好であることから現地試作継続の要望があった。	(課題)経年調査を行い収量性を評価する。	
イ「1u61」の現地栽培特性評価	砂丘地農業研究センターほ場20㎡	ムカゴの着生が極端に少ない「1u61」について、切片による増殖法を検討する。	(成果)切片を20gとし、植付溝の深さを10cm(ムカゴでは5cm)にすると、収穫株率7割程度と高くなったが、種芋として使用可能な子芋重50g以上の割合は5割に満たなかった。	(課題)継続して検討する。	
ウ 切片およびムカゴによる増殖法の検討	西園ほ場32㎡	ウイルス症状の軽微なナガイモ在来系統「大橋系」に由来するウイルスを汁液接種した「1u61」について暴露栽培を行い、収量性について5年目の評価を行う。	(成果)暴露栽培5年目でもウイルスフリー株と比較して、収量低下は認められなかった。	(課題)継続して収量性を調査する。	
(2)ウイルス接種「1u61」の収量性比較 ア「大橋系」由来ウイルス接種(暴露4年目)	弓浜砂丘地分場	弓浜砂丘地分場ほ場 3a	新たな坊主不知ネギの交雑種の育成	(成果) ・在来の坊主不知ネギ系統の自殖6系統1,078個体、交雑4系統2407個体を確保した。	(課題) ・抽台しない系統、収穫出荷時(5月)の葉鞘の丸い系統を選抜し、増殖する。
白ネギ(坊主不知)新品種の育成	弓浜砂丘地分場	弓浜砂丘地分場ほ場 3a	新たな坊主不知ネギの交雑種の育成	(成果) ・在来の坊主不知ネギ系統の自殖6系統1,078個体、交雑4系統2407個体を確保した。	(課題) ・抽台しない系統、収穫出荷時(5月)の葉鞘の丸い系統を選抜し、増殖する。

事業名	(単)ねばりっ娘を核とする「砂丘ながいもブランド」強化に向けた栽培技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	28年度 ～ 32年度		(予算額)	(2,821,000円)	
			支出済額	578,004円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 'ねばりっ娘'専用栽培技術の確立	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場				
(1)施肥の検討		西園ほ場1.6a	'ねばりっ娘'に適した肥培管理を検討するため、肥培管理を変え(追肥時期前進、基肥なし、萌芽期重点)、生育、収量、品質に及ぼす影響について調査する。	(成果)追肥前倒し及び基肥なし処理を行うと収量は慣行と同等で、萌芽期重点施肥で若干収量が多い傾向だった。品質は処理による差がなかった。 (課題)継続調査が必要。	
(2)縦割れ症の原因明 う 施肥による影響		由良現地ほ場1.4a	施肥方法の違いが縦割れ発生に及ぼす影響を、縦割れ甚発生ほ場で検討する。	(成果)生育初期の増肥により縦割れの発生株率が高くなる傾向が見られた。 (課題)継続調査及び施肥量削減による発生低減効果を検討する。	
エ 種芋による影響		由良現地ほ場0.5a	種芋の種類(子芋、頂芽)及び種芋重の違いが縦割れ発生に及ぼす影響を検討する。	(成果)種芋の違い(子芋大、子芋慣行、頂芽大、頂芽慣行)による縦割れの発生への影響はなかった。 (課題)種芋の種類や重さは、縦割れの発生に影響しなかったため、原因ではないことが明らかとなったため、試験終了。	
(5)ムカゴ着生低減方法の検討 ア 植物生長調整剤による影響		西園ほ場0.5a	植物調整剤の使用が'ねばりっ娘'のムカゴの発生に及ぼす影響を検討する。	(成果)GA(植物調整剤)液剤100ppmまたは50ppmで茎葉へ散布すると、ムカゴ重・粒数ともに減少したが、25ppmでは効果が判然としなかった。 (課題)継続調査が必要。	
(6)バックホウ収穫による収量・品質経年調査		西園ほ場1.0a	バックホウ収穫(植え列でない通路部分を収穫時に崩す)による芋の収量及び品質を経年調査する。	(成果)慣行区とバックホウ収穫区の初年度の芋の品質は同等だった。 (課題)植え列でない通路部分を収穫時に崩すことによる芋への影響を経年調査する。	
2 黒陥没対策技術の確立					
イ 土壌pHによる影響	西園ほ場1.0a	土壌pHの違いが黒陥没症の発生、品質、収量に及ぼす影響を検討する。	(成果)土壌pHの差異が黒陥没の発生に及ぼす影響はなかった。縦割れについても処理による差異はなかった。また、土壌pHの低下によって、収量が減少する可能性が考えられた。 (課題)継続調査が必要。		
ウ かん水時期による影響	砂丘地農業研究センターほ場 1.7a	かん水量時期の違いが黒陥没症の発生等の品質および収量に及ぼす影響を検討する。	(成果)慣行かん水区と無かん水区を比較すると慣行かん水区で黒陥没の発生が多くなる傾向が見られた。 (課題)継続調査が必要。		
エ 種芋保存時の温度の影響	東園現地ほ場0.6a	種芋保存期間中の温度が黒陥没症発生に及ぼす影響を検討する。	(成果)種芋を定植直前まで5℃(低温下)で保存すると、温度成行保存(慣行)と比較して出芽が遅く、収穫時の芋に黒陥没症の発生が多く見られる傾向だった。 (課題)継続調査が必要。		
オ 芋同士の距離が近いことによる影響	東園現地ほ場0.6a	密着栽培を行い、芋同士の距離が近いことが黒陥没症発生に及ぼす影響を'ねばりっ娘'において検討する。	(成果)黒陥没症の甚発生状況では、'ねばりっ娘'において芋同士の距離が近いことが黒陥没症発生に及ぼす影響は判然としなかった。 (課題)継続調査が必要。		
カ 土壌改良資材による影響	東園現地ほ場1.2a	土壌改良資材による黒陥没症発生低減効果を検討する。	(成果)ハイフミンハイブリッドGの施用初年における黒陥没症発生低減効果は判然としなかった。 (課題)継続調査が必要。		
3 在来ナガイモの生産安定技術の確立					
(1)在来系統の選抜	西園ほ場1.6a	園芸試験場が保存している24系統から2次選抜した9系統を、収量性及び形状から3次選抜する。	(成果)収量性良好で年次変動が少なく形状が良好な4系統を3次選抜した。 (課題)継続して検討する。		

事業名	(単)産地ニーズに応える特色ある鳥取型ブドウ栽培技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	29年度 ～ 33年度		(予算額)	(1,953,000円)	
			支出済額	419,636円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 'シャインマスカット'に続く有望品種の検討	砂丘地農業研究センター	(1)'シャインマスカット'を親とする新品種の特性確認 砂丘地研究センターほ場 5品種×各1樹(1.3a)	5品種('コビ' '雄宝' 'ヌーベルローズ' 'マスカ・サティン' 'マスカット・ノール')の特性を確認する。	(成果)'コビ'の花房伸張にジベレリン3ppm散布が有効であった。'雄宝'は緑色品種だが'シャインマスカット'より早く出荷できる品種と考えられた。その他の3品種は目標とする樹冠に到達した。 (課題)継続 'コビ'に適した果房整形法を検討する。'雄宝'の出荷時期を確認する。その他3品種は初結実となるので品質を調査する。	
(2)盆前出荷可能な品種の特性確認		砂丘地研究センターほ場 1品種×1樹(0.4a)	1品種('涼香')の特性を確認する。	(成果)研究推進会議(ブドウ部会)で'涼香'の試食を行ったところ、現在栽培されている品種に比べると劣る部分があった。 (課題)終了 '涼香'は本県での栽培適性は無いと判断し、淘汰・伐採し他の盆前出荷可能な品種を検討する。	
(3)第15回ブドウ系統適応性検定試験		砂丘地研究センターほ場 4品種×1樹(1.6a)	'安芸津31、32、33、34号'の特性を確認するための樹冠拡大。	(成果)'安芸津31、32、33、34号'を植栽し、樹冠拡大を進めた。 (課題)継続 引き続き樹冠拡大を進める。	
2 基幹品種の栽培技術の確立					
(1)'テラウェア'のジベレリン1回処理技術の検討	砂丘地研究センターほ場 3樹(1.2a)	省力化の期待できるジベレリン1回処理について検討する。	(成果)ジベレリン1回処理は、2回処理と同等以上に無核化が可能であったが、房重・粒重が小さくなった。 (課題)継続 無核化の再確認と房重・粒重の改善を検討する。		
(2)'ヒオーネ'の台木による生育特性の比較	砂丘地研究センターほ場 4品種×各2樹(1.6a)	'ヒオーネ'の初期生育や果実品質等に適する台木を検討する。	(成果)樹冠拡大は、平成30年度で目標面積に到達した。果実品質調査から、房重・果粒が大きくなる台木品種は'3309'と'188-08'であった。 (課題)継続 果実と収量を継続調査する。		
3 'シャインマスカット'高品質果実生産技術の確立					
(1)省力的な新梢管理法の検討	砂丘地研究センターほ場 2樹(1.2a)	樹勢が旺盛で新梢管理に労力を要するため、効率的な副梢葉の管理法について検討する。	(成果)全ての副梢を除去する方法と房より元は2~3葉残す方法を試験した結果、どちらも慣行の全て2~3葉残す方法より管理時間が短く、果実品質は同等であった。 (課題)継続 省力的副梢管理法が他の品種で利用可能か検討する。		
(2)台木による生育特性の比較	砂丘地研究センターほ場 4品種×各2樹(1.6a)	'シャインマスカット'の初期生育や果実品質等に適する台木を検討する。	(成果)樹冠拡大は平成30年度で目標面積に到達した。果実品質調査から、'5BB' '5C'は、熟期が早まり、'3309' '101-14' '5C'は房重が大きくなる台木品種であった。 (課題)継続 果実と収量を継続調査する。		
(3)白色袋が糖度に及ぼす影響	砂丘地研究センターほ場 2樹(1.2a)	'シャインマスカット'の糖度安定対策として、白色袋が果実の糖度に及ぼす影響について調査する。	(成果)白色袋は濃い緑袋より糖度が高いが、青色袋より糖度が低かった。 (課題)終了 現行の袋を利用する。		
4 鳥取型低コスト単棟ハウスにおける栽培技術の確立					
(1)幼木の樹形等の検討	砂丘地研究センターほ場 2.8a	野菜で利用されている低コスト単棟ハウスで、ブドウ栽培を行う場合に適する樹形を'シャインマスカット'で検討する。	(成果)植栽2年目で最も総主枝長が大きくなったのは、H型4本主枝の整枝法であった。 (課題)継続 各処理区の樹形に基づきながら樹冠拡大を進め、収量の推移を調査する。		

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)日本一の砂丘ラッキョウ産地にふさわしい21世紀型栽培技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
	実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(2,805,000円) 493,314円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 最適な施肥法の確立	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場	鳥取市福部町ほ場 500㎡	9月中旬、10月上旬・下旬の重点施肥が生育、収量に及ぼす影響を、旧慣行を対照として検討する。	(成果)旧慣行区と比較して、新慣行区、9・10月増肥区、9・10月分施肥区は収量が増加する傾向が見られた。	(課題)引き続き、9月中旬から10月上旬頃中心の重点施肥によるラッキョウの収量特性を検討する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。
(1)収量に影響する重点施肥時期の解明				(成果)2月施肥により地上部の生育及び鱗茎重が増加する傾向が見られた。	(課題)病害虫発生程度の調査を加え、継続調査する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。
(2)中部地区における施肥の検討 ア 春肥の検討		砂丘地研究センター-西園ほ場48㎡	中部地区における春肥の効果をも「大栄1号」を用いて検討する。	(成果)秋のみ施肥により、地上部の生育が増大し、収穫前期・後期ともに鱗茎重・収量が増加した。	(課題)継続して検討を行う。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。
イ 秋季重点施肥の検討	砂丘地研究センター-西園ほ場48㎡	福部地区で効果的だと考えられた施肥法を中部地区で取り入れた場合(慣行施肥と同等の窒素量を、生育初期には施用せず秋季(9月中旬から11月上旬)に施肥)の、「大栄1号」への効果を検討する。	(成果)早期収穫時の収量性は「白皮④」、「H2502」が優れ、「白皮③」は昨年と傾向が異なった。	(課題)3次選抜した5系統の収量特性の年次変動を調査する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。	
2 早出し栽培技術の確立	砂丘地研究センター-ほ場72㎡	鳥取市福部町ほ場 50㎡	福部砂丘で平成23～25年に収集した17系統の内、昨年3次選抜した5系統の特性を検討する。	(成果)秋季、春季とも降水量が平年以上の条件下では、収量は春季かん水によって増加したが、秋季かん水は収量に及ぼす影響は判然としなかった。また、かん水処理による鱗茎乾物率(熟期)への影響はなかった。	(課題)引き続き秋季および春季のかん水処理が生育、収量、品質に及ぼす影響を検討する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。
(1)現地優良系統の選抜と特性解明				(成果)秋季、春季とも降水量が平年以上の条件下では、収量は春季かん水によって増加したが、秋季かん水は収量に及ぼす影響は判然としなかった。また、かん水処理による鱗茎乾物率(熟期)への影響はなかった。	(課題)引き続き秋季および春季のかん水処理が生育、収量、品質に及ぼす影響を検討する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。
(2)春かん水の効果的な方法の検討	砂丘地研究センター-西園ほ場72㎡	春季のかん水量の違いが、収量、乾物率(熟期)に及ぼす影響を収穫時期別に検討する。	(成果)「大栄1号」について5月収穫、6月収穫ともに、施肥のみ特裁区の収量は慣行区と同等だった。	(課題)「大栄1号」を用いて、減農薬処理を組み合わせる慣行栽培と比較する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。	
3 砂丘畑での有機・特別栽培技術の確立	砂丘地研究センター-西園ほ場72㎡	砂丘地研究センター-西園ほ場72㎡	中部地区で主に栽培されている「大栄1号」を用いて、化成肥料由来窒素成分を9・10月のみ施用することで半減し、収量を慣行施肥と比較する。	(成果)「大栄1号」について5月収穫、6月収穫ともに、施肥のみ特裁区の収量は慣行区と同等だった。	(課題)「大栄1号」を用いて、減農薬処理を組み合わせる慣行栽培と比較する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。
(1)慣行栽培と比較した施肥体系の検討 ア 「大栄1号」における検討				園試育成品種「レジスタファイブ」を用いて、化成肥料由来窒素成分を9・10月のみ施用することで半減し、収量を慣行施肥と比較する。	(成果)「レジスタファイブ」について5月収穫、6月収穫ともに、鱗茎重は施肥のみ特裁区は慣行区と比較して若干劣った。昨年の試験では慣行区と同等の収量を得られていたので、次年度も調査する。
イ 「レジスタファイブ」における検討	砂丘地研究センター-西園ほ場72㎡	園試育成品種「レジスタファイブ」を用いて、化成肥料由来窒素成分を9・10月のみ施用することで半減し、収量を慣行施肥と比較する。	(成果)「大栄1号」について5月収穫、6月収穫ともに、鱗茎重は施肥のみ特裁区は慣行区と同等だった。	(課題)「大栄1号」を用いて、減農薬処理を組み合わせる慣行栽培と比較する。なお、残された課題については、組替事業で検討を行っていく。	
4 省力化技術の確立	砂丘地研究センター-西園ほ場40㎡	砂丘地研究センター-西園ほ場40㎡	チェーンポットに充填する用土について、各種培土・軽量資材の適合性を検討する。	(成果)ピートモスなどの土壌改良剤やおがくずを用いると、砂に比べてトレイが軽量化でき収量性が高かった。しかし、チェーンポットに用土を充填しなくても手植えと同等程度の収量が得られたが、鱗茎の曲がりが多発し、品質面では劣ったため実用的ではなかった。	(課題)砂に代わる用土の種類と収量性が明らかとなったため試験終了。
(1)チェーンポット栽培に最適な培土の検討				(成果)ピートモスなどの土壌改良剤やおがくずを用いると、砂に比べてトレイが軽量化でき収量性が高かった。しかし、チェーンポットに用土を充填しなくても手植えと同等程度の収量が得られたが、鱗茎の曲がりが多発し、品質面では劣ったため実用的ではなかった。	(課題)砂に代わる用土の種類と収量性が明らかとなったため試験終了。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(委)白ネギの産地力強化に向けた栽培技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	27年度 ～ 31年度		(予算額) 支出済額	(2,410,000円) 1,877,212円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
新たな病害虫蔓延防止対策技術の確立	弓浜砂丘地分場	米子市現地ほ場 10a	難防除土壌病害「ネギ黒腐菌核病」の早急な防除方法の確立を目指し、各種薬剤処理による防除技術の確立を行う。	(成果) ・土壌消毒、ガス抜き後の微生物資材の投入は定植時および最初の土寄せ時に50kg/10aを植え溝施用することによって300kg/10a全面施用途同等の発病抑制効果があることが確認された。 ・生育期散布の新規薬剤パレード20フロアブル(12月登録)は可販率100%と効果が高かった。既存薬剤ではアフエットフロアブルとモンガリット粒剤の組み合わせで高い可販率が得られた。	(課題) ・発生源となるネギ残渣の処理方法の確立
		ほ場 15a	ネダ二類による被害軽減のための防除技術の確立および、ネギアザミウマに対して効果的な防除体系の確立を行う。	(成果) ・ネダ二類における致死温度条件を解明し、太陽熱処理によっても、夏季高温時であれば地表から20cm程度までは再現が出来る可能性がある。 ・ネギアザミウマに対する薬剤処理体系において、同系統の薬剤連用を避けるローテーションで慣行防除体系と同等の防除効果が確認された。	(課題) ・防除体系の確立
		ほ場 90a	高品質な白ネギの周年安定供給に向け、作型別適品種の選定および関羽一本太の9月どり作型における2L率向上のための栽培等を検討する。	(成果) ・一本ネギの完全周年化に向け、各作型における有望品種を選定した。 ・9月どりトンネル被覆栽培においてトンネル除去後の灌水は肥大促進、増収に有効で、2L率向上には栽植密度は4,000本/10a以下が良いと考えられた。	(課題) ・年次変動の確認および各作型の継続的な適品種の選定。 ・高温時期における育苗技術の確立
周年出荷体系の強化に向けた栽培技術の確立					

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)弓浜砂丘地域に適した特産野菜の高品質生産技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	27年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(372,000円) 87,187円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
ニンジンの高品質・安定生産技術の確立	弓浜砂丘地分場	ほ場 30a	・弓浜砂丘地域における主要品種「ペーター312」の代替品種の選定 ・代替品種における栽培特性の把握	(成果) ・8月上旬、下旬播種年内どり作型において、ペーター312よりも多収でミズバシ症の発生の少ない品種「愛紅」を選定した。 ・春まき初夏どり作型において、多収で品質の良い品種「翔彩」、「紅ひなた」を選定した。	(課題) ・年次変動の確認および各作型の継続的な適品種の選定。 ・作期の拡大および在圃性の調査。 残された課題は新規課題で検討を継続する。
サツマイモの高品質・生産安定技術の確立		ほ場 12a	・良食味品種「べにはるか」の多収技術の確立 ・良食味、多収品種の検索	(成果) ・べにはるかの栽培において挿苗から収穫までの日数を100日以上確保することによって、200kg/a以上の収量が確保できる。 ・べにはるかおよび新規注目品種のシルクスイートは挿苗時以降、灌水を行うことで収量が増加すると考えられる。	(課題) ・安定した多収技術の確立は新規課題で検討を継続する。
新規品目の検索と栽培技術の確立		ほ場 10a	・収益性の高い新規品目の検索	(成果) ・短根ゴボウは形状等に問題があり、長根種の早堀での可能性が認められた。	(課題) ・栽培技術の確立は新規課題で検討を継続する。

(平成30年12月31日現在)

事業名	(単)「輝太郎」から始まる鳥取カシシリーズの安定生産技術の確立		担当室別	河原試験地	
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額)	(1,190,000円)	
			支出済額	400,531円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
輝太郎早期成園化技術の確立	本場	輝太郎 本場 幼木約80樹	1台木の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する 2整枝方法の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する 3着果量の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する	(成果) 1台木の違いによって樹体生育量に差が見られ、禪寺丸台木の生育量が劣った。 2後期生理落果が60%程度見られ、果実の収量性・品質の検討はできなかった。	(課題) 1後期生理落果の原因究明と改善対策の検討・実施は新規課題で検討を継続する。
輝太郎生産安定のための技術開発	河原試験地 本場	輝太郎 河原試験地若木約80樹 本場幼木約80樹	1後期生理落果の実態調査及び軽減対策を検討する	(成果) 1後期生理落果は試験地約9%、本場約60%であった。 2樹勢の影響もあるが、落ちやすい樹と落ちにくい樹は、年によっても同様の傾向が見られた。 3環状剥皮による落果軽減効果は不安定であった。	(課題) 1後期生理落果の原因究明と改善対策の検討・実施は新規課題で検討を継続する。
輝太郎果実品質向上のための技術開発	河原試験地	輝太郎 若木80樹 ポット樹20樹	1環状剥皮の効果を確認する 2出荷時期前進化対策を検討する 3着果管理法を検討する 4汚れ防止対策を検討する	(成果) 1環状剥皮により果実肥大・熟期促進効果が認められたが、裂皮等により等級低下が見られた。 2植調剤によりやや熟期が促進されたものもあったが、果重低下等問題が残った。 3葉果比は22枚程度が適当と判断された。 4摘葉処理の汚れ防止等効果は判然としなかった。	(課題) 1環状剥皮効果確認の継続 2熟期促進試験の継続 3葉果比と果実品質の確認 4適用効果の再確認、防水マルチ等による裂皮軽減対策の検討
輝太郎に適した施肥体系の検討	河原試験地	輝太郎 若木20樹	1輝太郎に適した施肥体系を検討する	(成果) 1元肥なし区では着らい数、葉色値、果重が低くなり、元肥の効果が確認された。	(課題) 1元肥、春肥の施用時期、施用量の検討は新規課題で検討を継続する。

西条生産安定技術の確立	河原試験地、本場	西条 河原試験地 成木35樹 本場 幼木31樹	1台木の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する 2施肥体系の検討を行う	(成果) 1台木の違いにより樹体生育量に差が見られ、禪寺丸台の生育が劣ったが、着らい数が多く、生理落果も少なかったため収量は多くなった。その他の台木は樹勢は強く樹冠拡大は早い。着らいが少なかったり生理落果が多く収量性は低かった。収穫果が少なく果実品質の検討はできなかった。 2元肥削除区では着らい数、葉色値、果重が低くなり、元肥の効果が確認された。 (課題) 1台木の検討試験継続 2元肥、春肥の施用時期、施用量の検討 上記の課題は新規課題で検討を継続する。
富有生産安定技術の確立	河原試験地	富有 成木12樹	1富有に適した省力追肥体系の検討 ・元肥を施用しない施肥体系の確立	(成果) 1元肥削除区では、着らい数、葉色値が低くなり、元肥の効果が確認された。 2果実品質に差は認められなかった。 (課題) 1元肥、春肥の施用時期、施用量の検討は新規課題で検討を継続する。
花御所の生産安定と高品質化技術の確立	河原試験地、本場	花御所 河原試験地 優良系統6系統 ×2樹、対照2 樹 成木樹13樹、 ポット1樹 本場 成木8樹	1雄花の少ない優良系統の選抜 2くぼみ・黒変果の発生実態調査 ・発生率、発生時期等	(成果) 1A系統が雄花が少なく、次いでF、B系統も少なかったが、C、D、E系統は期によるパラツキや雄花が多い傾向が見られた。果実品質に差は見られなかった。 2くぼみ果の発生率は約22%、内部黒変の発生率は約71%で、調査した4年間ほぼ同様の傾向であった。内部黒変の発生は樹によって差が見られた。 (課題) 1A、F、B系統に絞って年次変動調査 2内部黒変発生要因の検討 上記の課題は新規課題で検討を継続する。

事業名	(単)作期拡大及び作柄安定による儲かる中山間地農業技術の確立	担当室別	日南試験地	
実施計画期間	26年度 ～ 30年度	(予算額) 支出済額	(2,510,000円) 1,507,015円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
夏秋トマトの9～10月高品質安定生産技術の確立	日南試験地	ハウス 8.4a	<ul style="list-style-type: none"> ・中高位段の着果安定化及び裂果軽減策を検討し、9月～10月の収量確保、高品質化技術を確立する。 ・日射に比例して自動かん水が可能な装置の雨よけトマト栽培での実用性を検討する。 ・土壌病害対策技術を確立する。 ・内張り資材による無加温栽培での作拡大の可能性を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・‘りんか409’を斜め誘引で株間40cmとすると草勢低下が著しく株当たりの着果数や収量は減少するが、10a換算収量及び収益は増加した。生育初期の追肥量を削減しても生育及び収量への影響は認められなかった。 ・曇り及び雨の日のかん水量を抑制する改良を行った日射制御型拍動かん水装置において節水管理が可能となった。 ・放射状裂果対策としてフルメット液剤の効果が高いが、同心円状裂果及び裂皮を軽減する効果はないと判断された。 ・台木品種‘TTM-127’は‘グリーンガード’より強草勢で‘グリーンフォース’と同等の収量となり、青枯病耐病性にも強いことから、‘グリーンガード’の代替品種として有望と考えられた。 ・早期定植・内張り展張により増収したが、品質低下及び諸経費の増加により収益は約2割増にとどまった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望台木の現地適応性調査 ・‘りんか409’の施肥・かん水基準の策定 ・無加温作型延長技術の実証 <p>以上については新規課題で継続検討する。</p>
夏ネギ前進作型の安定化と機械化対応育苗技術の確立		ほ場 18a	<ul style="list-style-type: none"> ・機械移植に対応した200穴セルトレイによる直置き育苗技術を確立する。 ・中山間地域の気象条件を活用した盆前出荷作型を中心とした体制強化を図る。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土質の異なるほ場において土壌水分と機械移植精度の関係は判然としなかった。2月は種では根幹強度が弱く機械移植精度の低下につながる可能性が示唆された。 ・盆前どりでは‘夏の宝山’、‘MKS-N22’、9月どりでは‘MKS-N22’、‘森の奏で’、‘源翠’が標準品種と同等以上の収量となり有望と考えられた。 ・1穴1粒まき越冬大育苗苗ではチェーンポット直置き育苗とすることで12月には種しても慣行の10月まきベンチ育苗と同等の苗質が確保できた。 ・輪作により白ネギの生育及び収量は向上するが、土壌化学性との関係は不明瞭であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェーンポット直置き育苗法の確立 ・作期別適品種の選定 ・土壌病害対策技術の確立 <p>以上については新規課題で継続検討する。</p>
ブロッコリー作期拡大試験		ほ場 12a	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏どりにおけるポトニング回避技術を確立する。 ・7月中旬及び9月中旬作型において適品種を選定するとともに、腐敗対策技術を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植後のトンネル被覆により、収穫期は最大5日前進化することから選植え早どりの可能性が示唆された。 ・6月上旬どり品種として4月上旬は種の‘BL-453’、‘MKS-B107’、下旬は種の‘SK9-099’、‘MKS-B107’を有望と認めた。 ・7月中旬どりでは‘SK9-099’、‘翠麟’が品質良好で腐敗の発生も少なかった。 ・9月中旬どりでは花蕾腐敗多発により適品種選定が出来ず、銅剤散布の効果も判然としなかったが、雨よけ栽培では腐敗発生が大幅に減少し安定生産の可能性が示唆された。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初夏どりにおける極早生品種の選定と選植え早どり技術の確立 ・高温期収穫作型における腐敗対策技術確立 <p>以上については新規課題で継続検討する。</p>
新規品目の検索と栽培法の確立		ハウス 1a ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・早春から収穫可能で高収量が期待できるアスパラガスの適品種を選定する。 9～10月どりトルコギキョウのは種期別適品種を選定する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスパラガスは秀品収量及び可販収量が多い‘ゼンユウガリバー’、1本重が最大の‘ウエルカム’を有望と認めた。 ・トルコギキョウについて7月上旬定植、9～10月収穫の適品種を数品種選定したが、中旬定植では十分な草丈が確保できなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスパラガスの施肥、かん水技術の検討 ・トルコギキョウのは種期別適品種選定 <p>以上については新規課題で継続検討する。</p>

○意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等 特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等 特になし

